

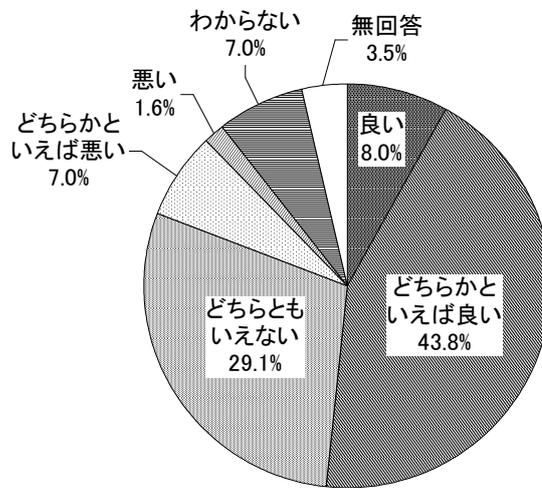
11 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況

問36 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

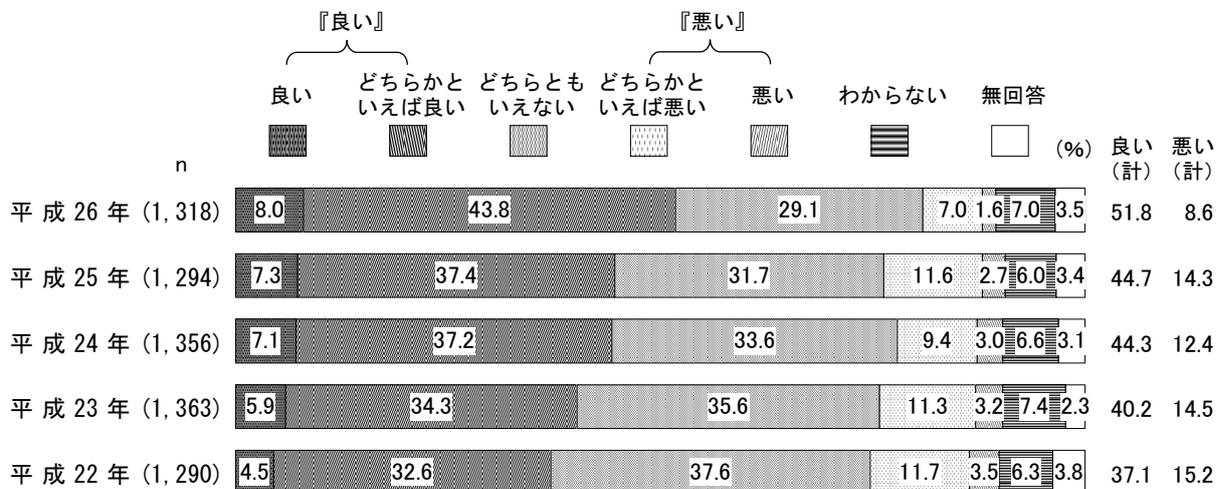
[n=1,318]

1	良い	8.0%	4	どちらかといえば悪い	7.0%
2	どちらかといえば良い	43.8	5	悪い	1.6
3	どちらともいえない	29.1	6	わからない	7.0
				(無回答)	3.5



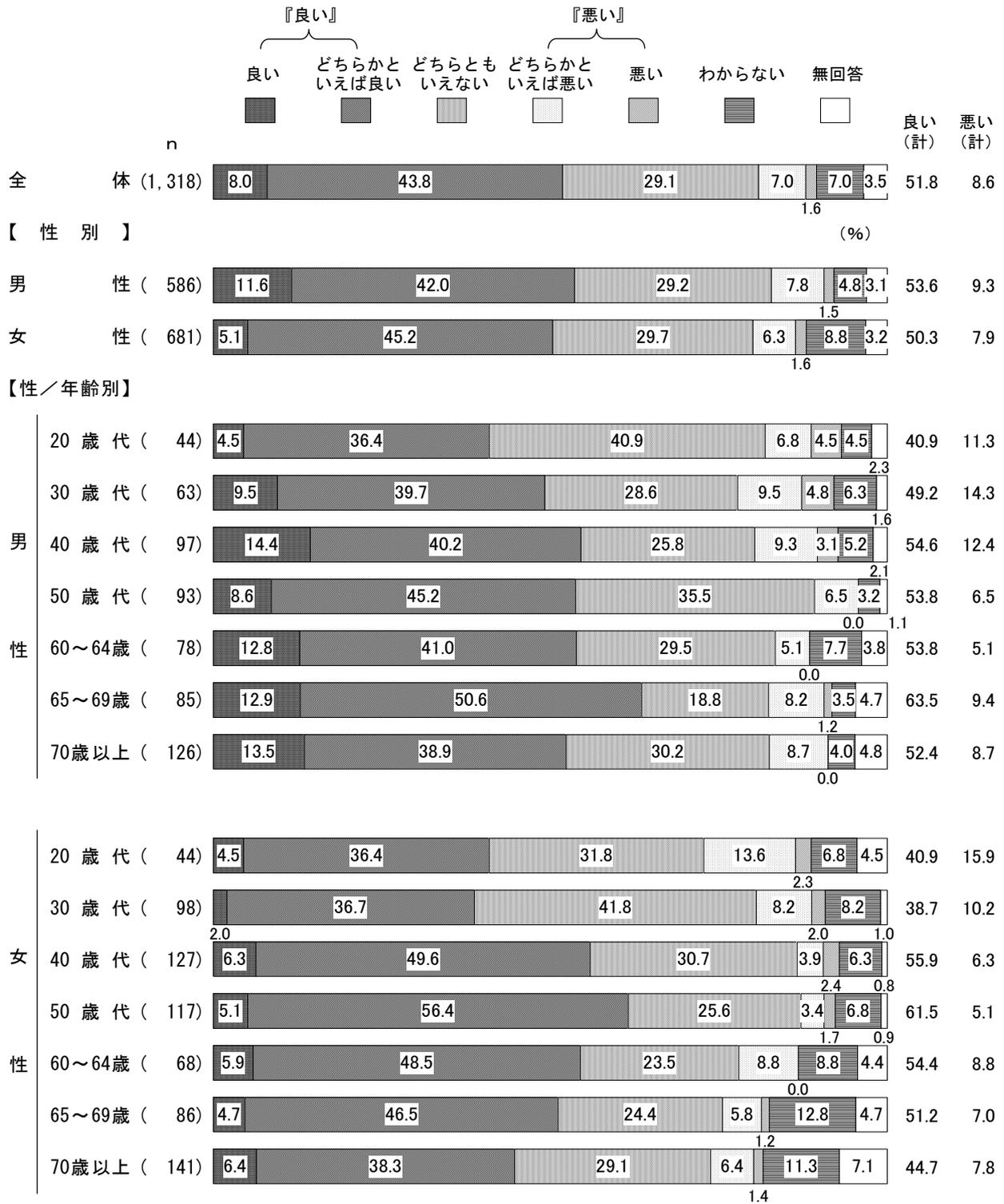
(n=1,318)

全体でみると、「良い」(8.0%)と「どちらかといえば良い」(43.8%)の2つを合わせた『良い』(51.8%)が5割を超えている。一方、「どちらかといえば悪い」(7.0%)と「悪い」(1.6%)の2つを合わせた『悪い』(8.6%)は1割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(29.1%)はほぼ3割となっている。



過去の調査結果と比較すると、『良い』が増加傾向にあり、前回(平成25年)と比べて7.1ポイント増加している。一方、『悪い』は前回(平成25年)と比べて5.7ポイント減少している。

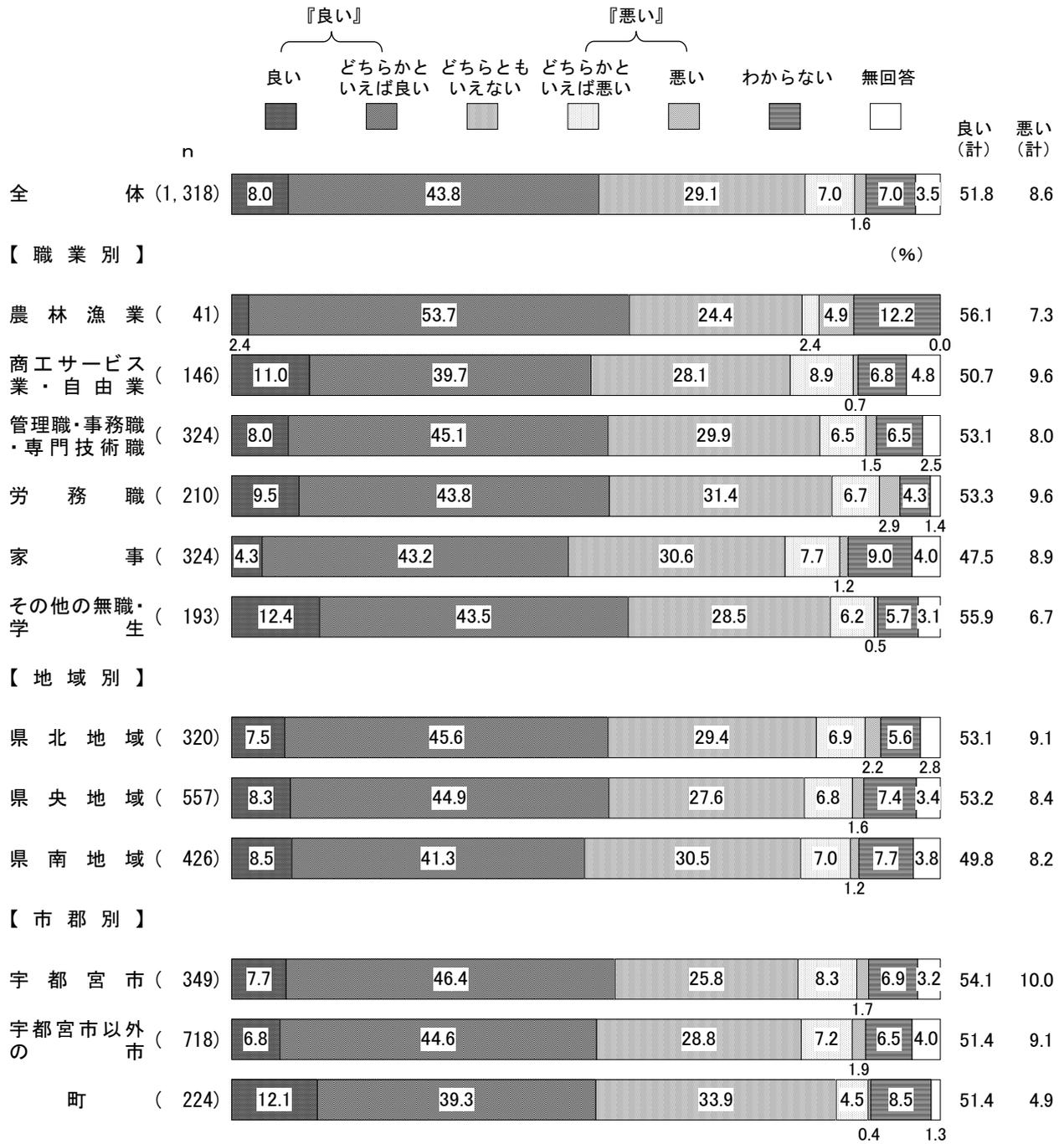
【性別・性／年齢別】



性別でみると、『良い』では〈男性〉(53.6%)が〈女性〉(50.3%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『良い』では〈男性65～69歳〉が63.5%、〈女性50歳代〉が61.5%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、『良い』は〈農林漁業〉が56.1%、〈その他の無職・学生〉が55.9%と高くなっている。

地域別でみると、『良い』は〈県央地域〉が53.2%、〈県北地域〉が53.1%となっており、〈県南地域〉(49.8%)に比べて高くなっている。

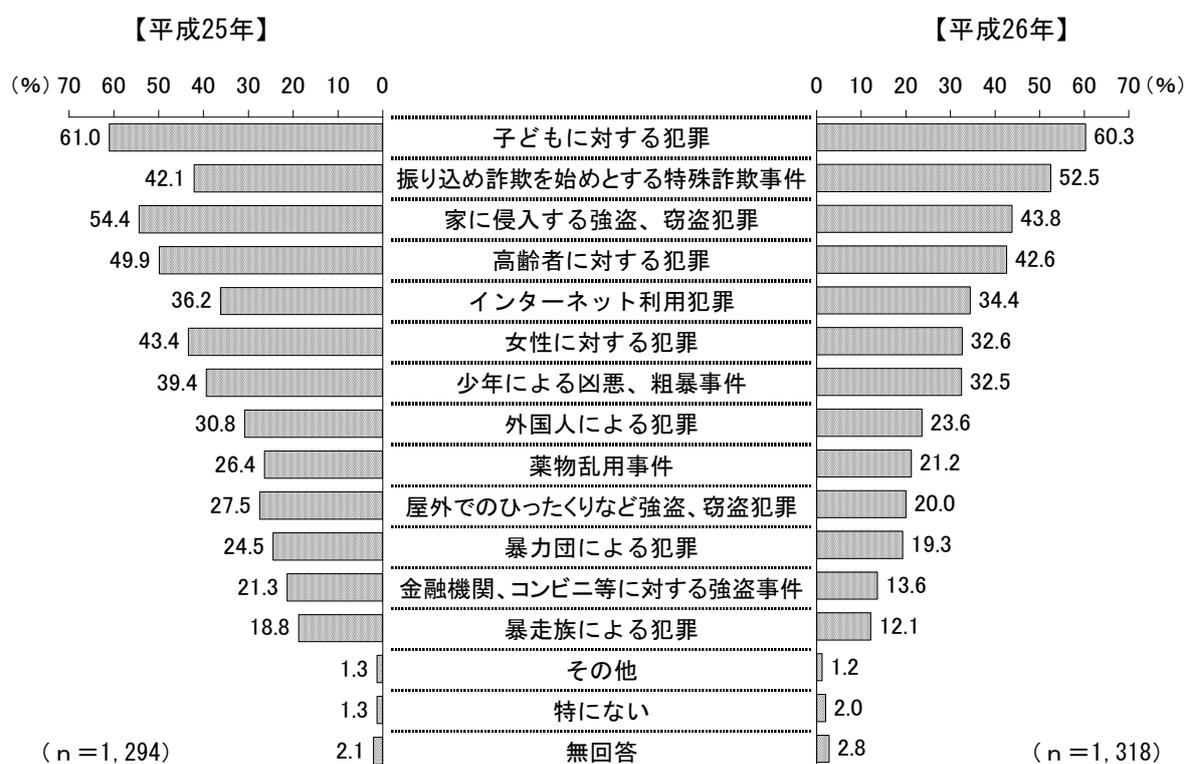
市郡別でみると、『良い』は〈宇都宮市〉が54.1%と高くなっている。

(2) 不安を感じる犯罪

問37 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,318]

1	子どもに対する犯罪	60.3%	9	暴走族による犯罪	12.1%
2	女性に対する犯罪	32.6	10	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	43.8
3	高齢者に対する犯罪	42.6	11	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	20.0
4	振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件	52.5	12	薬物乱用事件	21.2
5	金融機関、コンビニ等に対する強盗事件	13.6	13	インターネット利用犯罪	34.4
6	少年による凶悪、粗暴事件	32.5	14	その他	1.2
7	外国人による犯罪	23.6	15	特にない	2.0
8	暴力団による犯罪	19.3		(無回答)	2.8



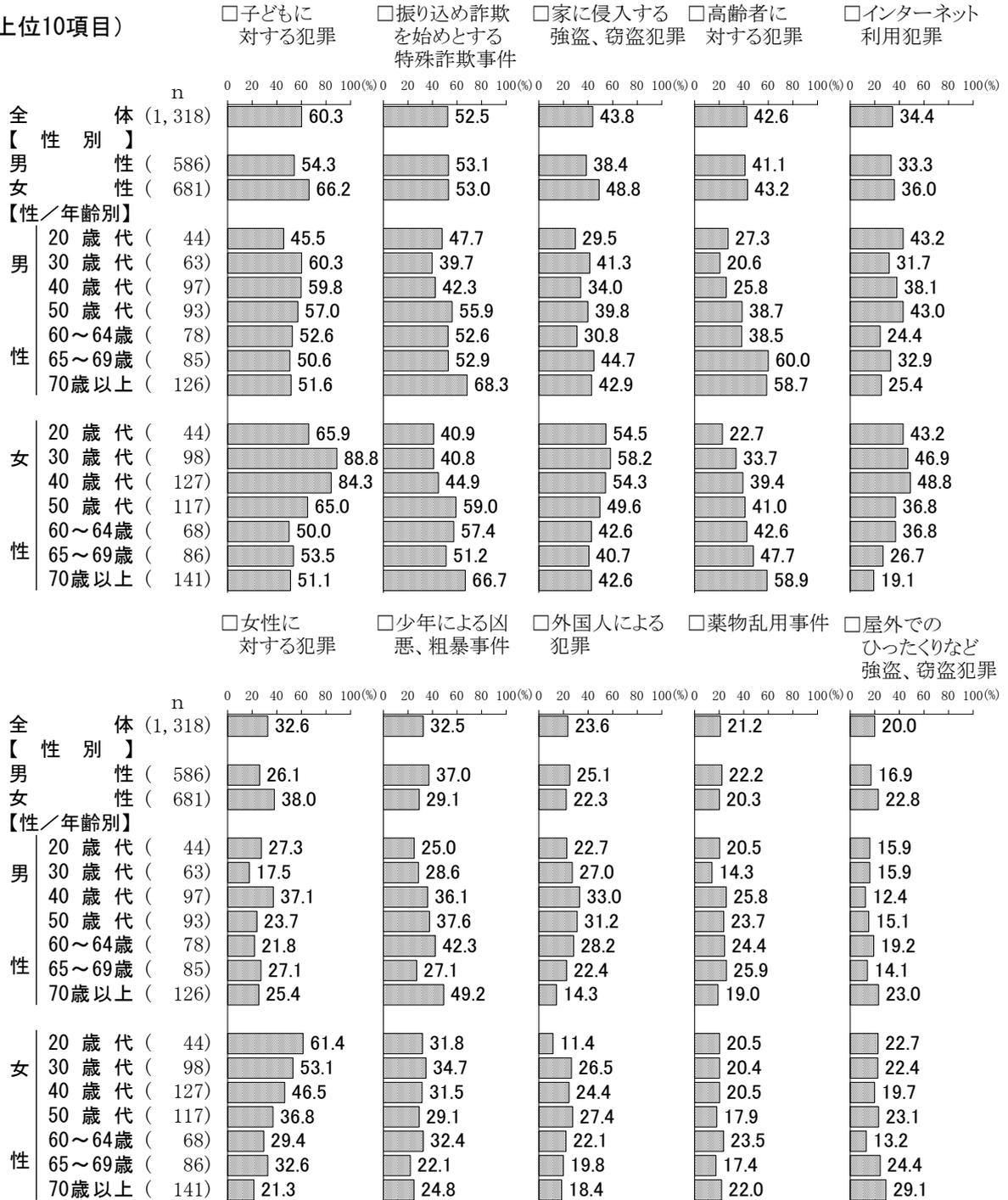
※平成25年調査では、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」は「振り込め詐欺事件」としていた。

全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(60.3%)が6割で最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(52.5%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(43.8%)、「高齢者に対する犯罪」(42.6%)、「インターネット利用犯罪」(34.4%)の順となっている。

前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」が10.4ポイント増加している。一方、「女性に対する犯罪」が10.8ポイント、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」が10.6ポイント、「金融機関、コンビニ等に対する強盗事件」が7.7ポイント、「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」が7.5ポイント、「高齢者に対する犯罪」が7.3ポイント、「外国人による犯罪」が7.2ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が6.9ポイント、それぞれ減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

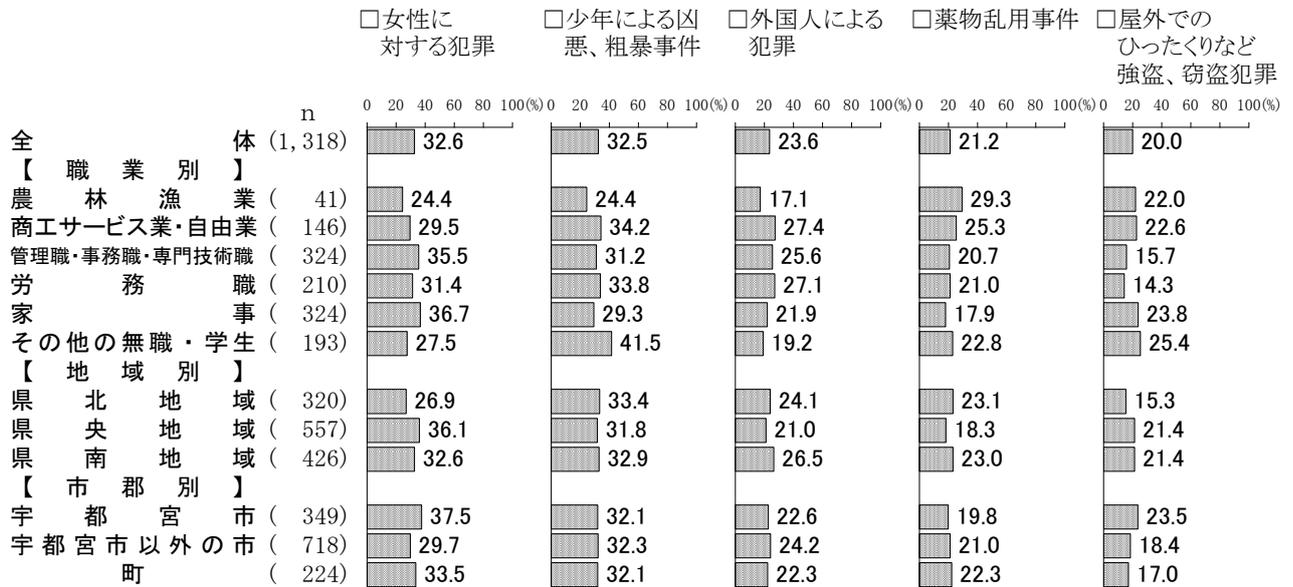
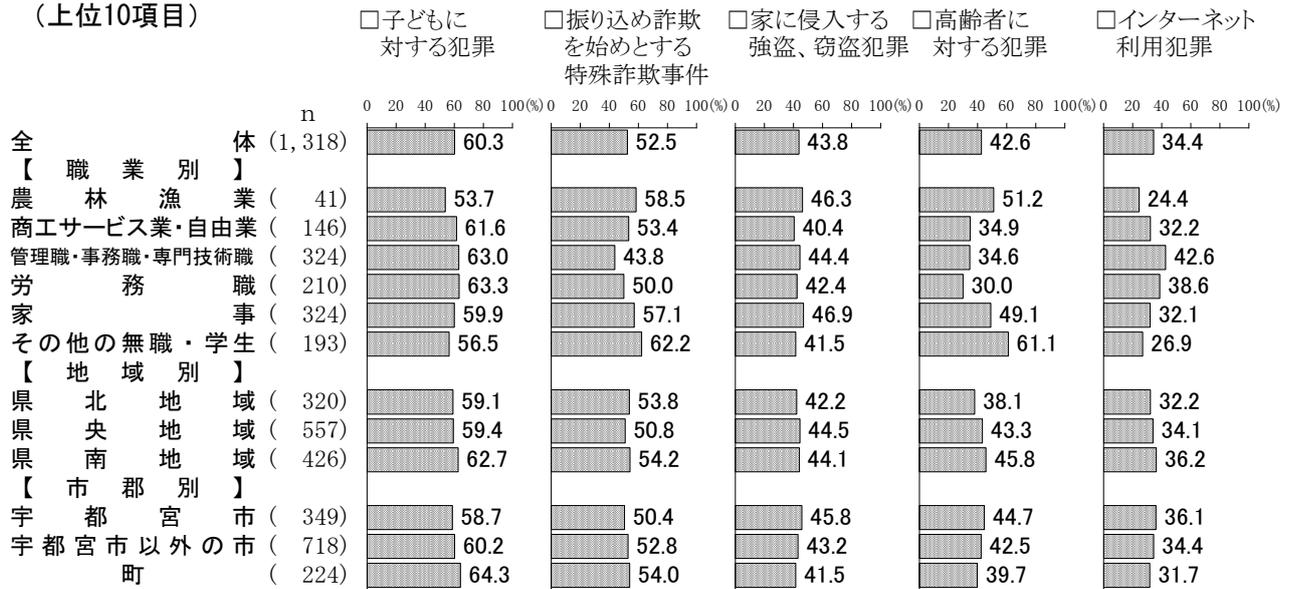


性別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(66.2%)が〈男性〉(54.3%)より11.9ポイント高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性〉(38.0%)が〈男性〉(26.1%)より11.9ポイント高く、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(48.8%)が〈男性〉(38.4%)より10.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が88.8%、〈女性40歳代〉が84.3%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈男性70歳以上〉が68.3%、〈女性70歳以上〉が66.7%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈男性65~69歳〉が60.0%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が61.4%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]

(上位10項目)



職業別でみると、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈その他の無職・学生〉が62.2%と高く、「高齢者に対する犯罪」でも〈その他の無職・学生〉が61.1%と高くなっている。

地域別でみると、「高齢者に対する犯罪」では〈県南地域〉が45.8%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈県央地域〉が36.1%と高くなっている。

市郡別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈町〉が64.3%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈宇都宮市〉が37.5%と高くなっている。

(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

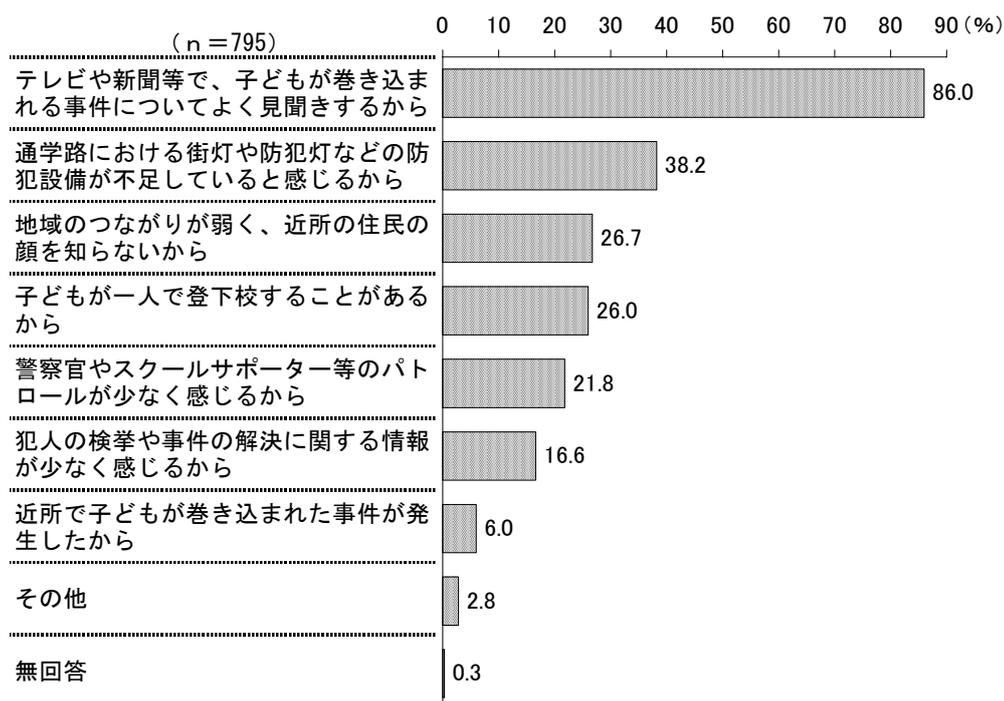
(問37で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問37-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

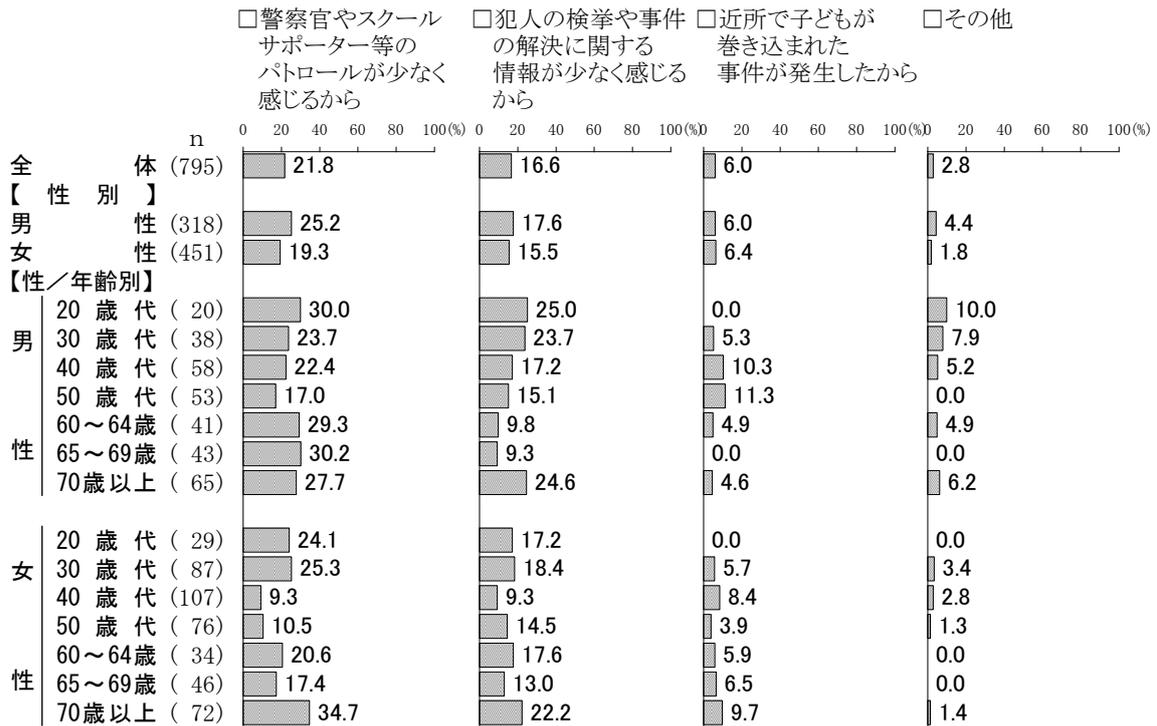
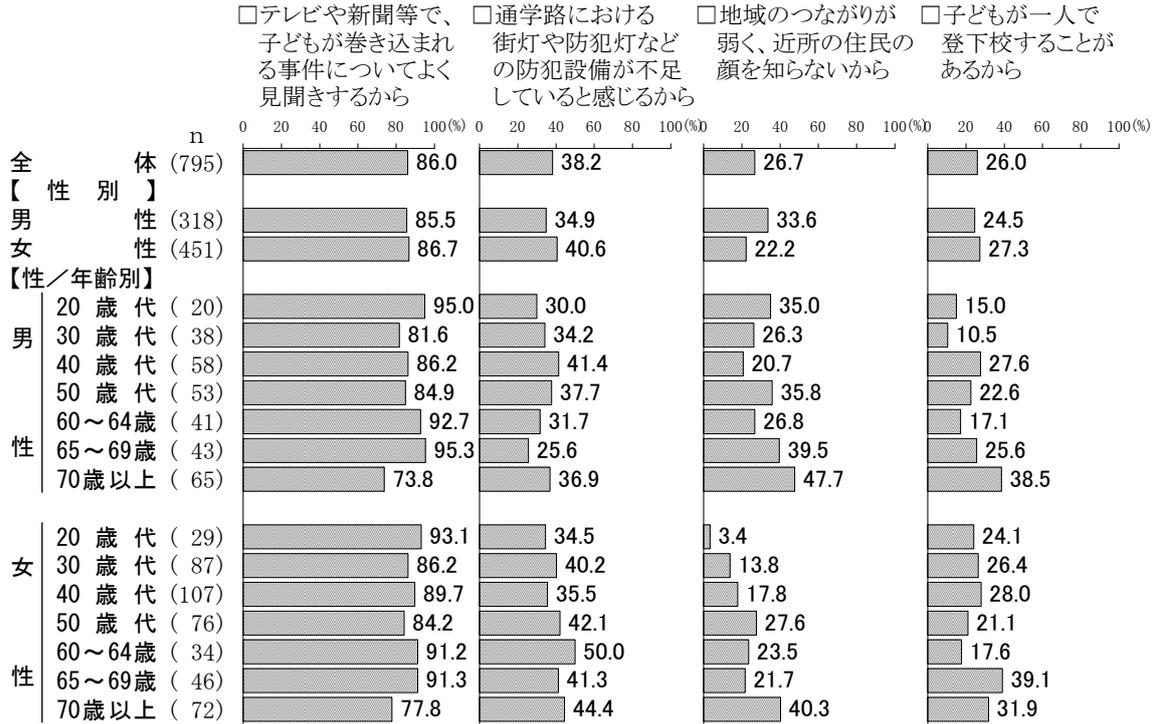
[n=795]

1	テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから	86.0%
2	通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから	38.2
3	子どもが一人で登下校することがあるから	26.0
4	地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから	26.7
5	近所で子どもが巻き込まれた事件が発生したから	6.0
6	警察官やスクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから	21.8
7	犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから	16.6
8	その他	2.8
	(無回答)	0.3



全体でみると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(86.0%)が8割半ばで最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(38.2%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(26.7%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(26.0%)の順となっている。

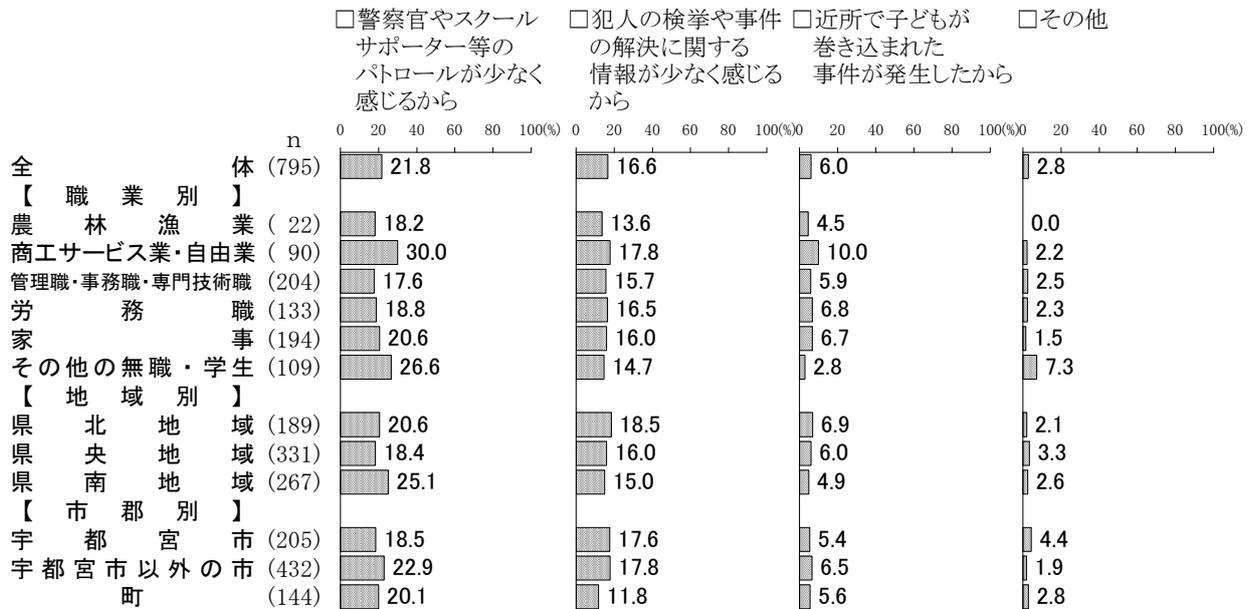
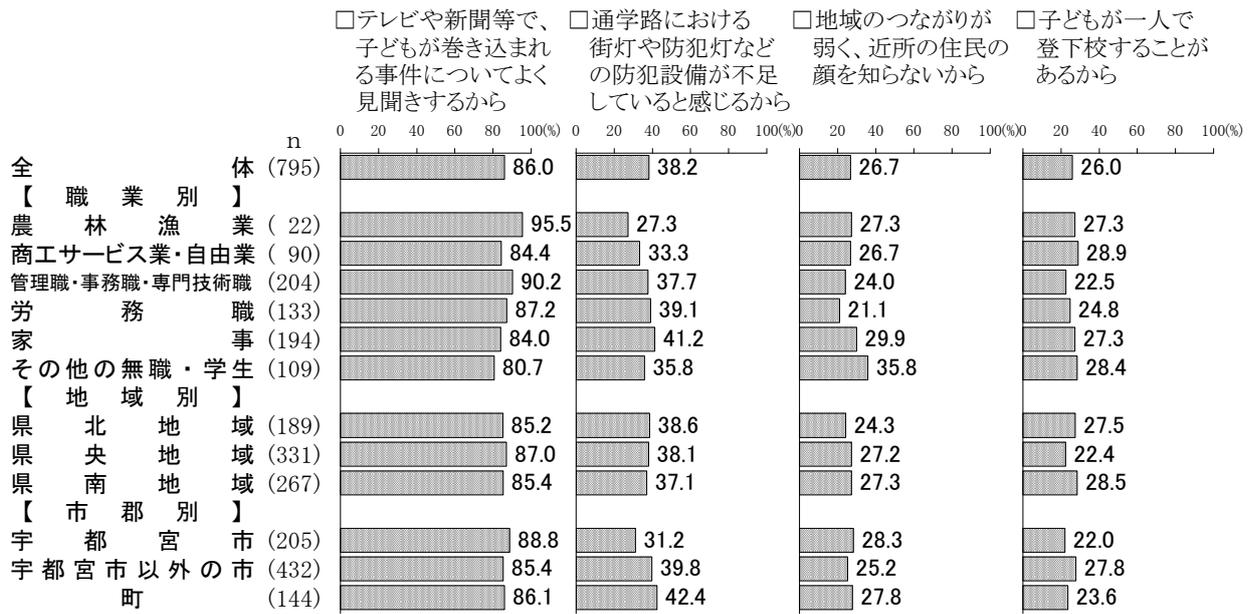
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性〉(33.6%)が〈女性〉(22.2%)より11.4ポイント高く、「警察官やスクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」では〈男性〉(25.2%)が〈女性〉(19.3%)より5.9ポイント高くなっている。「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性〉(40.6%)が〈男性〉(34.9%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性60~64歳〉が50.0%と高く、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性70歳以上〉が47.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈その他の無職・学生〉が35.8%と高くなっている。「警察官やスクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」では〈商工サービス業・自由業〉が30.0%と高くなっている。

地域別でみると、「警察官やスクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」では〈県南地域〉が25.1%と高くなっている。

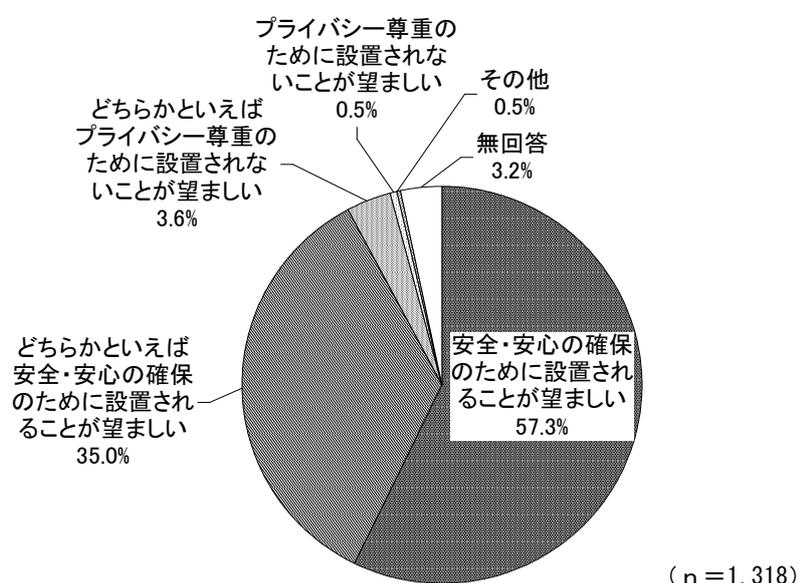
市郡別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈町〉が42.4%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈宇都宮市以外の市〉が27.8%と高くなっている。

(3) 公共空間における防犯カメラの設置について

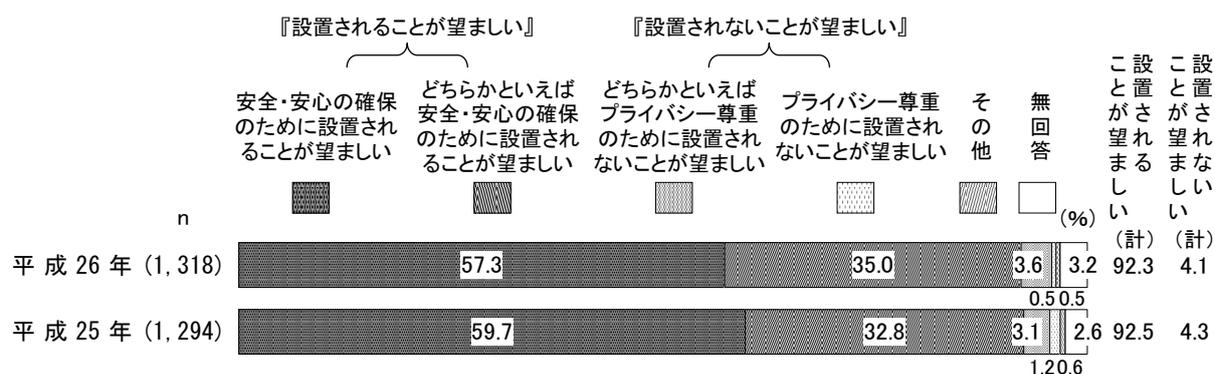
問38 あなたは、公共空間における防犯カメラの設置についてどのように思いますか。
次の中から1つを選んでください。

[n=1,318]

- | | | |
|---|-----------------------------------|-------|
| 1 | 安全・安心の確保のために設置されることが望ましい | 57.3% |
| 2 | どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい | 35.0 |
| 3 | どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい | 3.6 |
| 4 | プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい | 0.5 |
| 5 | その他 | 0.5 |
| | (無回答) | 3.2 |

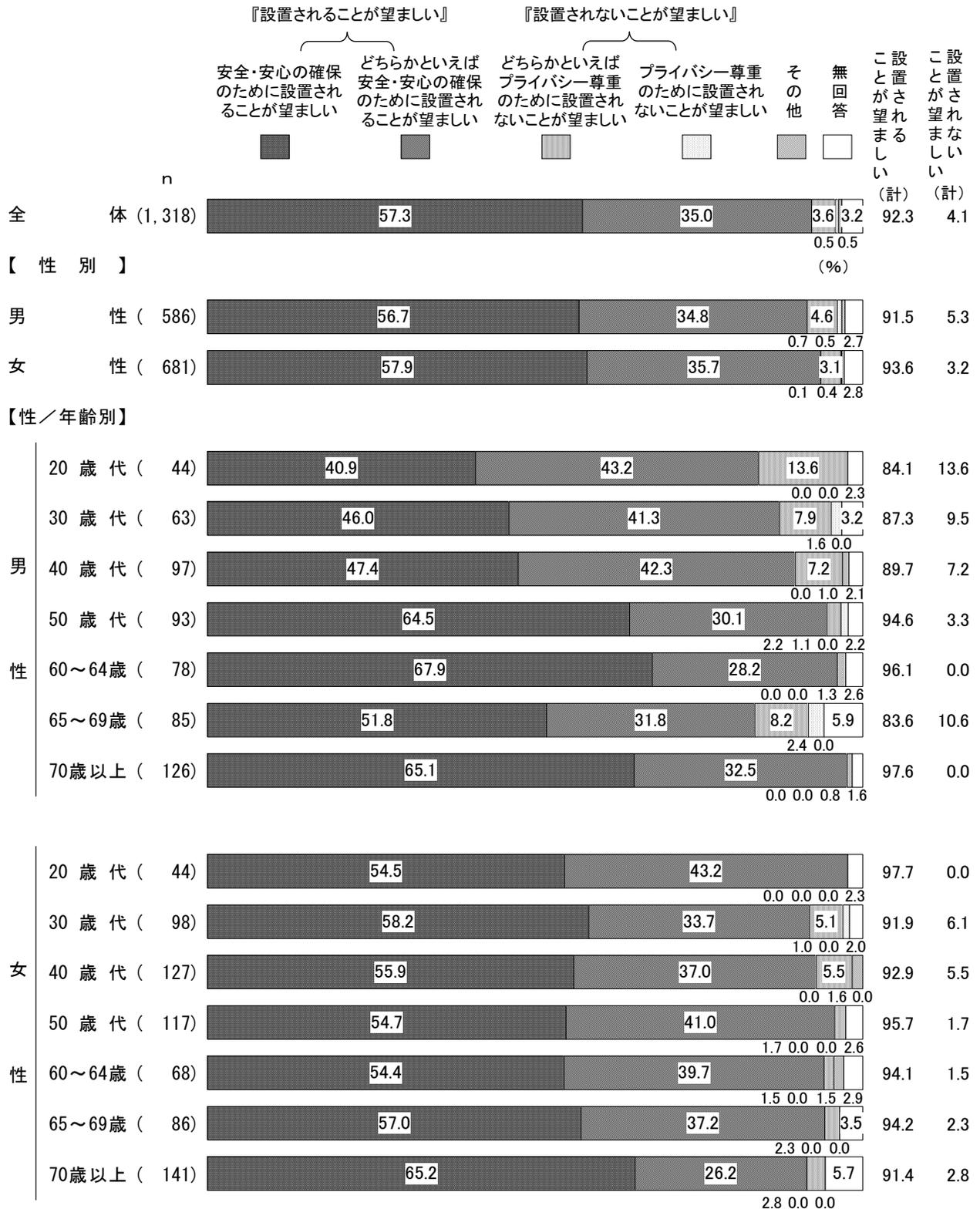


全体でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(57.3%)が6割近く、「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(35.0%)が3割半ばで、この2つを合わせた『設置されることが望ましい』(92.3%)が9割を超えている。「どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(3.6%)と「プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(0.5%)の2つを合わせた『設置されないことが望ましい』(4.1%)は1割に満たない。



前回(平成25年)の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向となっている。

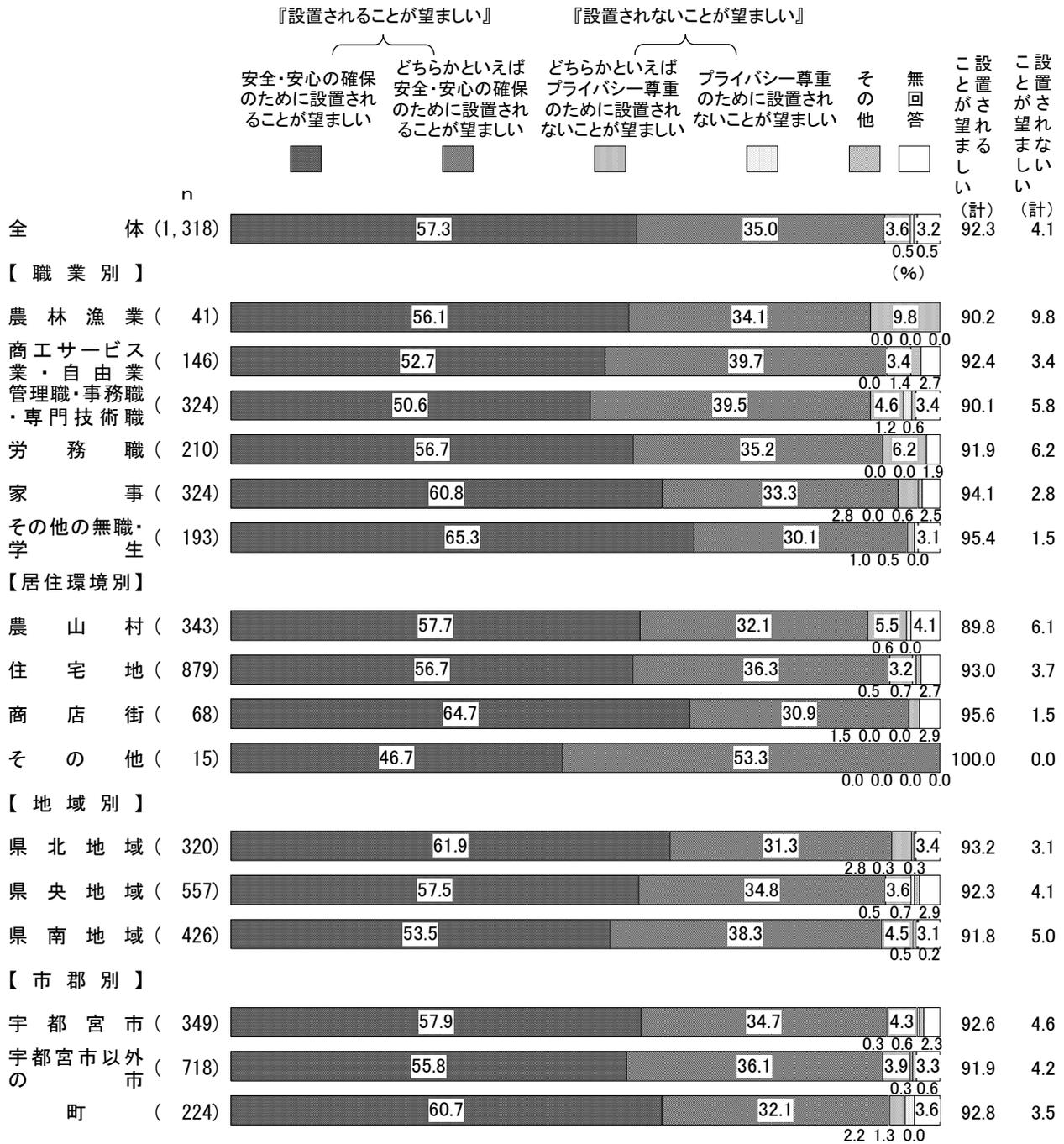
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『設置されることが望ましい』では〈女性〉(93.6%)が〈男性〉(91.5%)より2.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『設置されることが望ましい』では〈男性の20歳代から40歳代〉と〈男性65~69歳〉が8割台となっており、それ以外のすべての年代は9割台と高くなっている。

〔職業別・居住環境別・地域別・市郡別〕



職業別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈その他の無職・学生〉が65.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈商店街〉が64.7%と高くなっている。

地域別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈県北地域〉が61.9%と高くなっている。

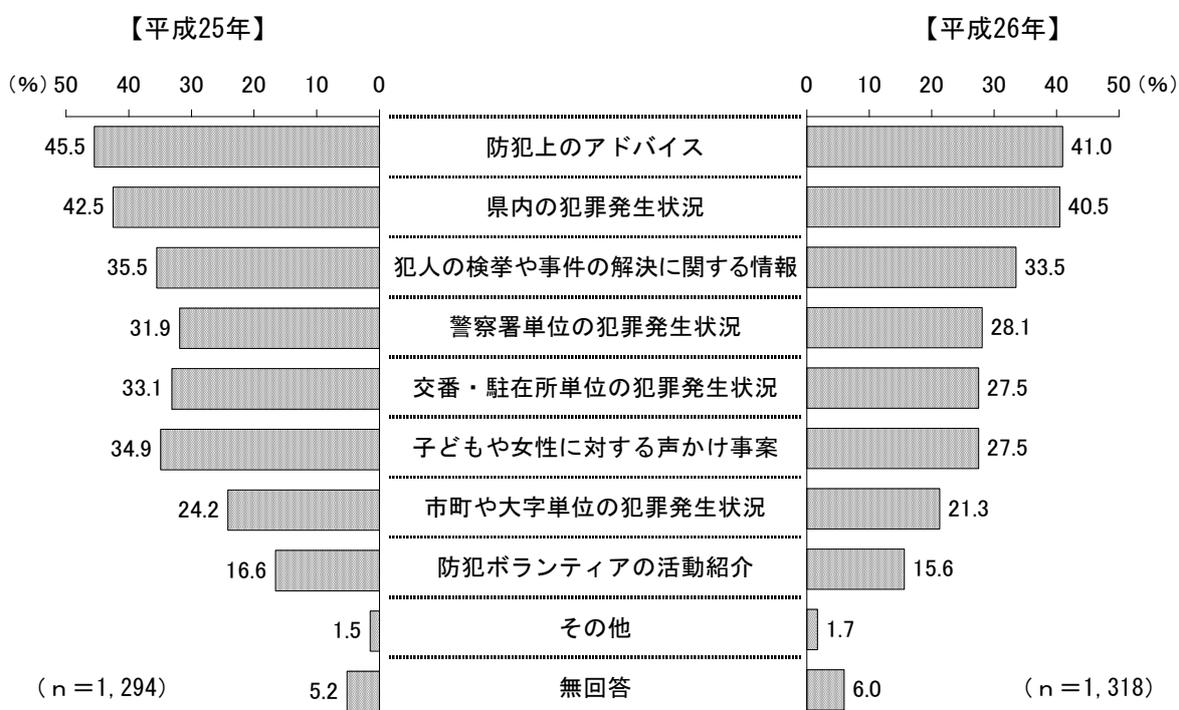
市郡別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈町〉が60.7%と高くなっている。

(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと

問39 犯罪の発生や防犯に関して、あなたは、警察からどのような内容の情報提供を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,318]

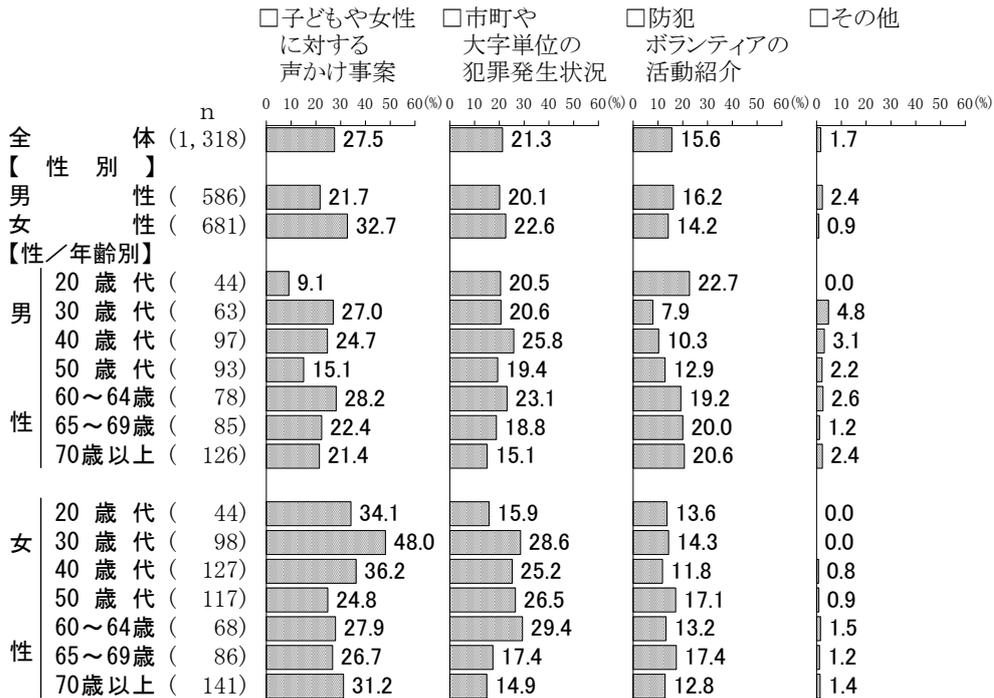
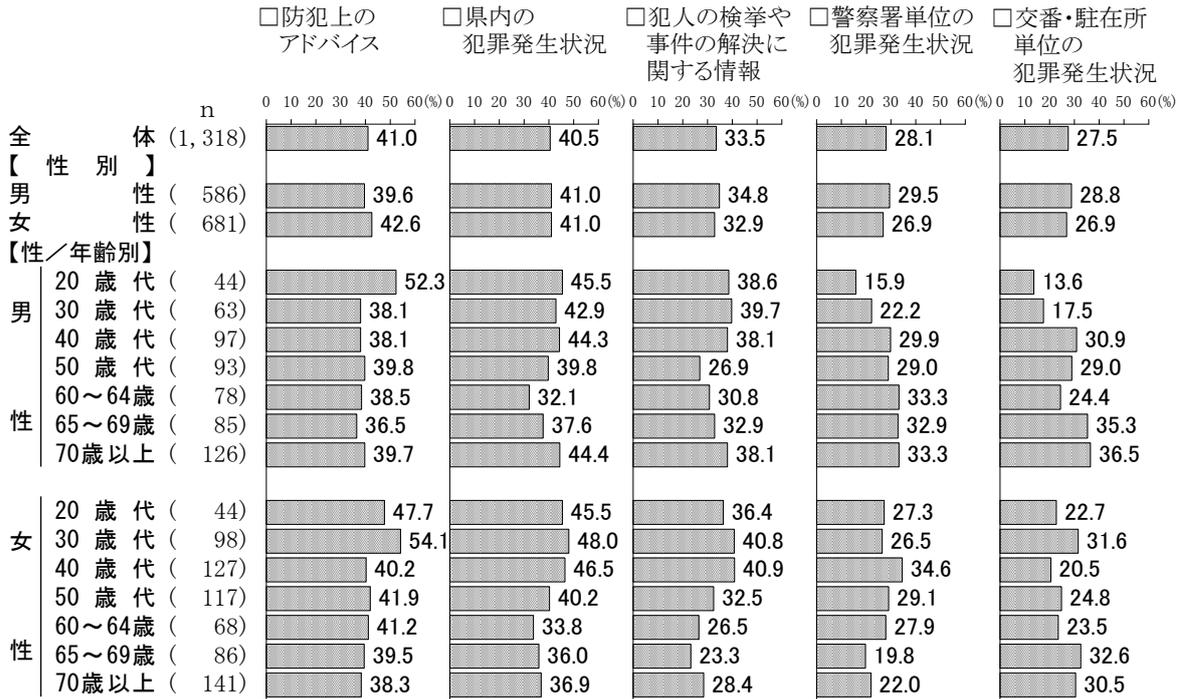
1	県内の犯罪発生状況	40.5%	6	子どもや女性に対する声かけ事案	27.5%
2	警察署単位の犯罪発生状況	28.1	7	防犯上のアドバイス	41.0
3	交番・駐在所単位の犯罪発生状況	27.5	8	防犯ボランティアの活動紹介	15.6
4	市町や大字単位の犯罪発生状況	21.3	9	その他	1.7
5	犯人の検挙や事件の解決に関する情報	33.5		(無回答)	6.0



全体で見ると、「防犯上のアドバイス」(41.0%)が4割を超えて最も高く、次いで「県内の犯罪発生状況」(40.5%)、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」(33.5%)、「警察署単位の犯罪発生状況」(28.1%)、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」(27.5%)、「子どもや女性に対する声かけ事案」(27.5%)の順となっている。

前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「子どもや女性に対する声かけ事案」が7.4ポイント減少し、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」が5.6ポイント減少している。

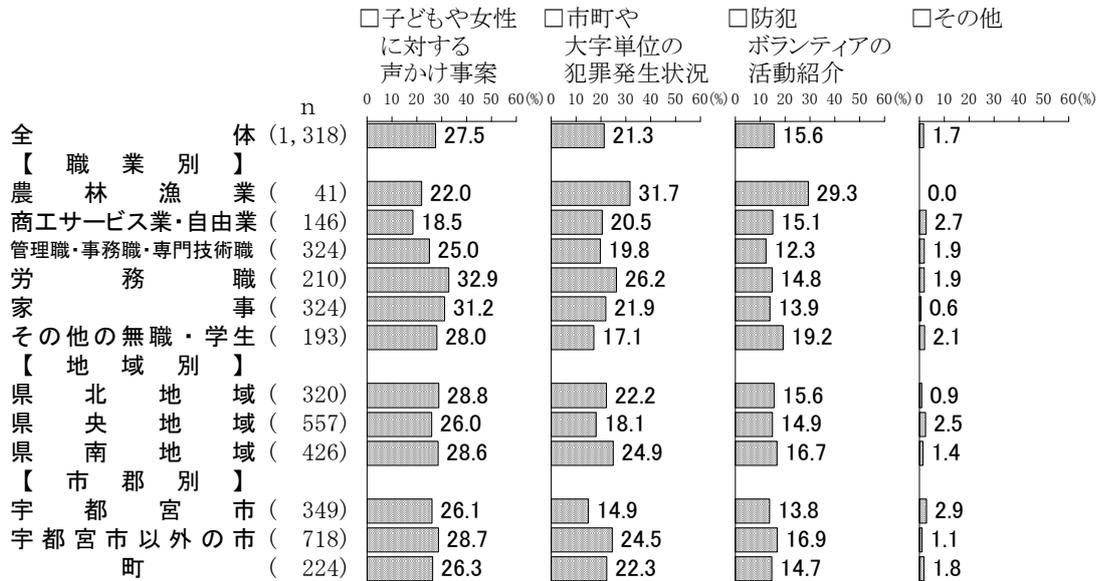
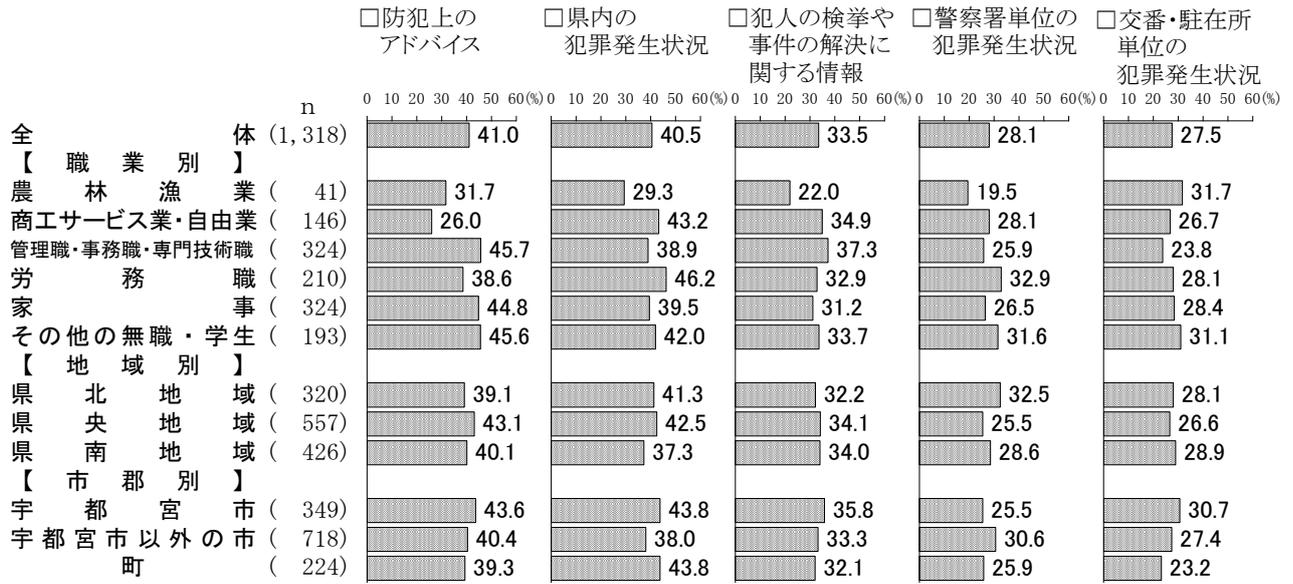
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性〉(32.7%)が〈男性〉(21.7%)より11.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「防犯上のアドバイス」では〈女性30歳代〉が54.1%、〈男性20歳代〉が52.3%と高くなっている。「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性30歳代〉が48.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「市町や大字単位の犯罪発生状況」では〈農林漁業〉が31.7%と高く、「防犯ボランティアの活動紹介」でも〈農林漁業〉が29.3%と高くなっている。

地域別でみると、「警察署単位の犯罪発生状況」では〈県北地域〉が32.5%と高くなっている。「市町や大字単位の犯罪発生状況」では〈県南地域〉が24.9%と高くなっている。

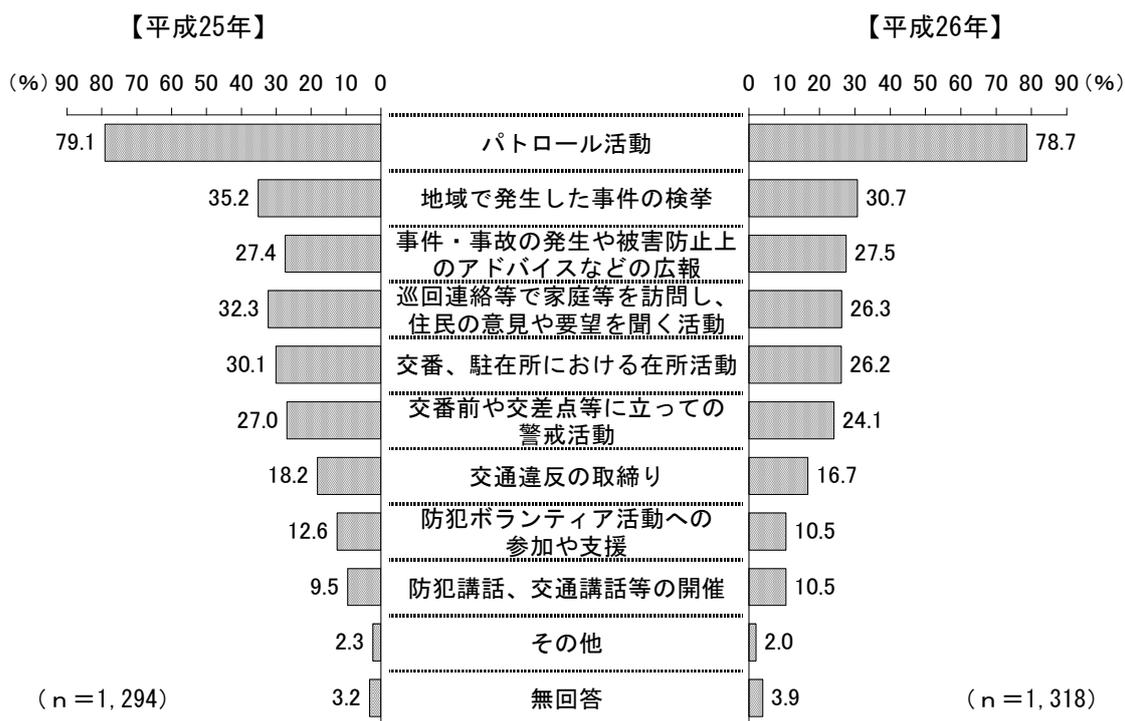
市郡別でみると、「警察署単位の犯罪発生状況」では〈宇都宮市以外の市〉が30.6%と高くなっている。「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」では〈宇都宮市〉が30.7%と高くなっている。

(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問40 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,318]

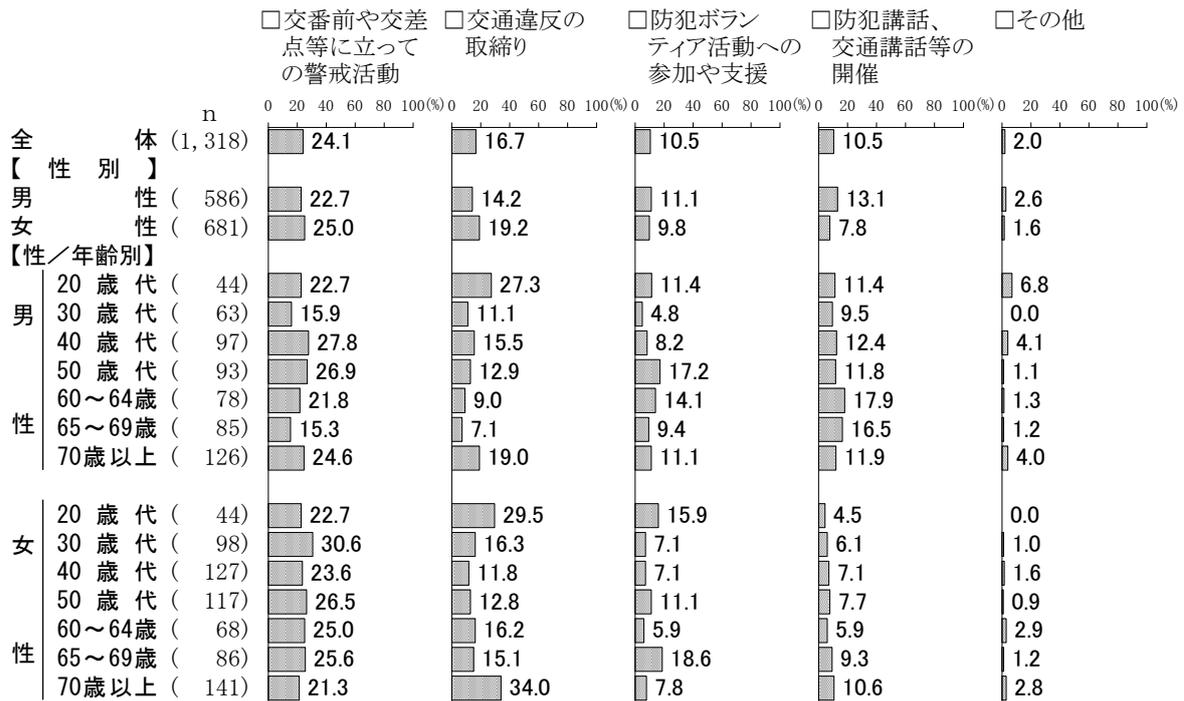
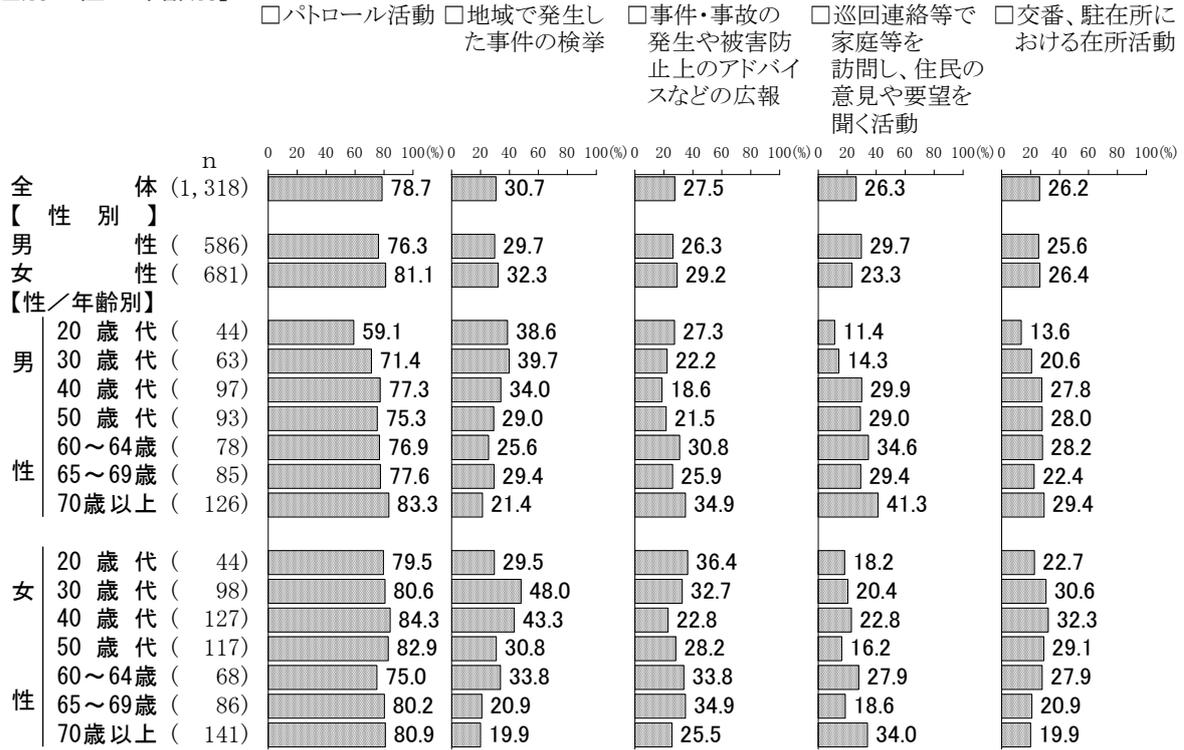
1	パトロール活動	78.7%
2	交番、駐在所における在所活動	26.2
3	巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	26.3
4	交番前や交差点等に立っての警戒活動	24.1
5	事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報	27.5
6	地域で発生した事件の検挙	30.7
7	交通違反の取締り	16.7
8	防犯講話、交通講話等の開催	10.5
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	10.5
10	その他	2.0
	(無回答)	3.9



全体で見ると、「パトロール活動」(78.7%)が8割近くで最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(30.7%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(27.5%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(26.3%)、「交番、駐在所における在所活動」(26.2%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(24.1%)の順となっている。

前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が6.0ポイント、「地域で発生した事件の検挙」が4.5ポイント減少している。

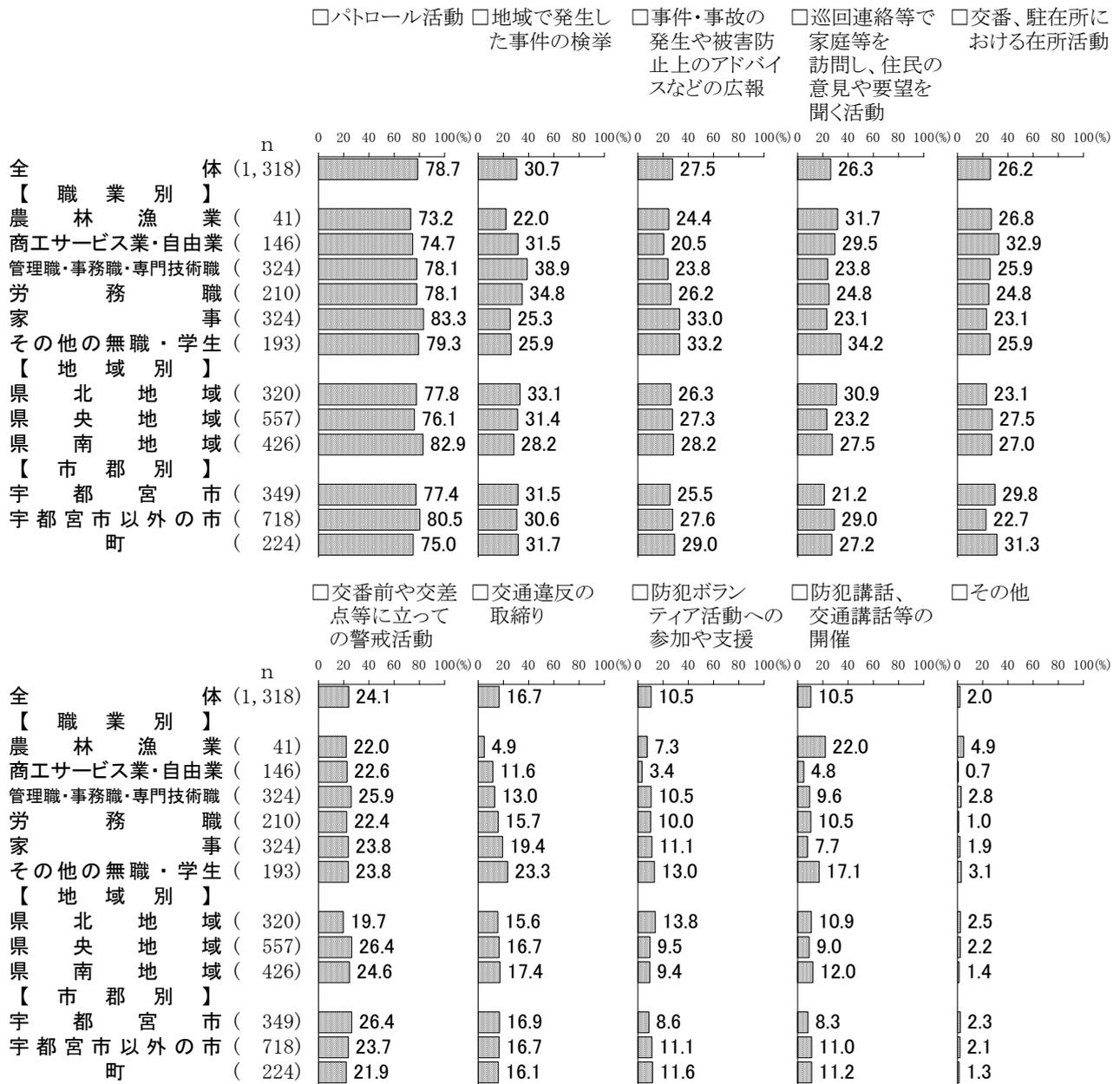
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(29.7%)が〈女性〉(23.3%)より6.4ポイント高く、「防犯講話、交通講話等の開催」では〈男性〉(13.1%)が〈女性〉(7.8%)より5.3ポイント高くなっている。「交通違反の取締り」では〈女性〉(19.2%)が〈男性〉(14.2%)より5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈女性30歳代〉が48.0%と高くなっている。「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が41.3%と高くなっている。「交通違反の取締り」では〈女性70歳以上〉が34.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が38.9%と高くなっている。

地域別でみると、「パトロール活動」では〈県南地域〉が82.9%と高くなっている。「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈県北地域〉が30.9%と高くなっている。

市郡別でみると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈宇都宮市以外の市〉が29.0%と高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈町〉が31.3%と高くなっている。

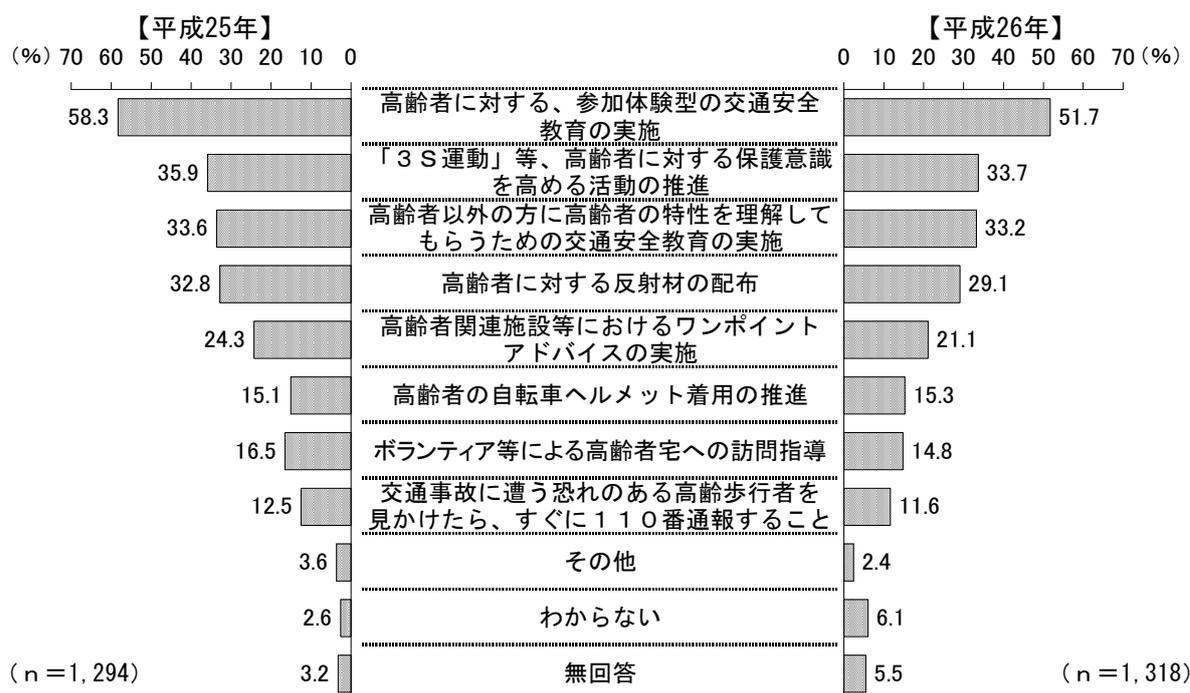
(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問41 高齢死者数が全交通事故死者の5割以上を占めていますが、高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,318]

1	高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施	51.7%
2	高齢者に対する反射材の配布	29.1
3	ボランティア等による高齢者宅への訪問指導	14.8
4	高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施	21.1
5	高齢者の自転車ヘルメット着用の推進	15.3
6	「3S運動」(※)等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進	33.7
7	高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施	33.2
8	交通事故に遭う恐れのある高齢歩行者を見かけたら、すぐに110番通報すること	11.6
9	その他	2.4
10	わからない	6.1
	(無回答)	5.5

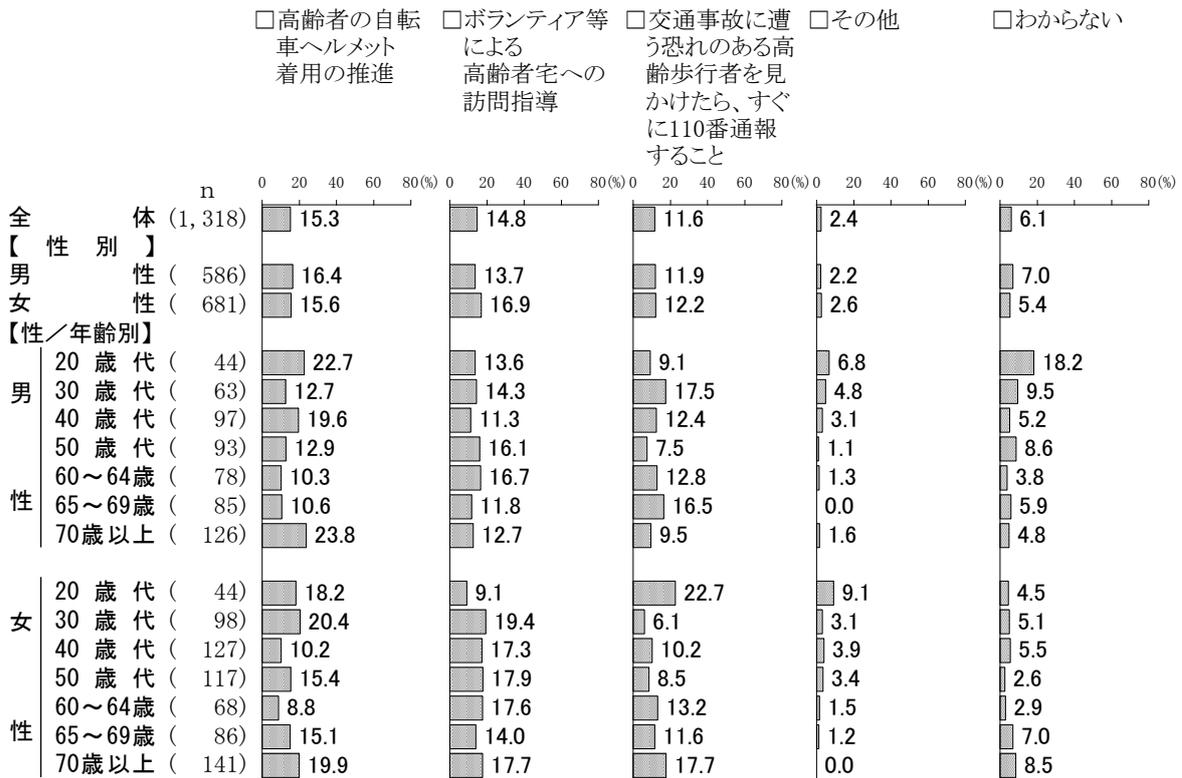
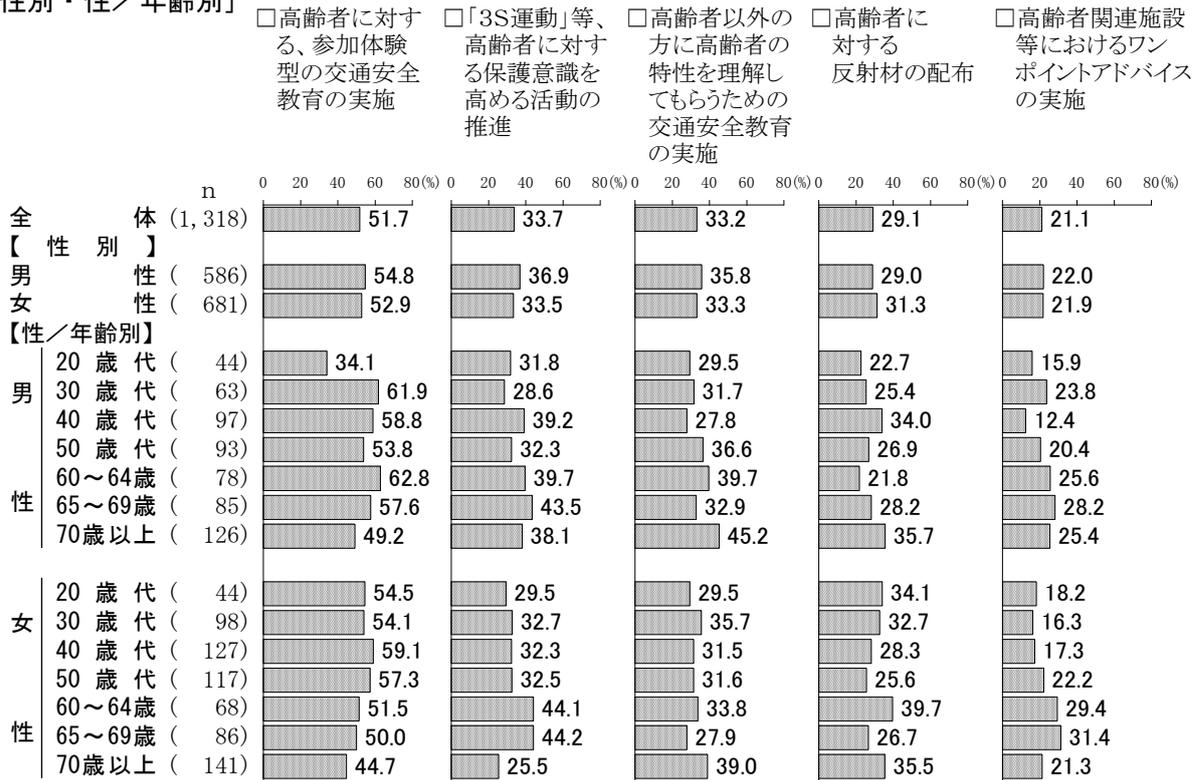
※3S(スリーエス)とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。



全体で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」(51.7%)が5割を超えて最も高く、次いで『「3S運動」等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」(33.7%)、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(33.2%)、「高齢者に対する反射材の配布」(29.1%)の順となっている。

前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」が6.6ポイント減少し、「高齢者に対する反射材の配布」が3.7ポイント減少している。

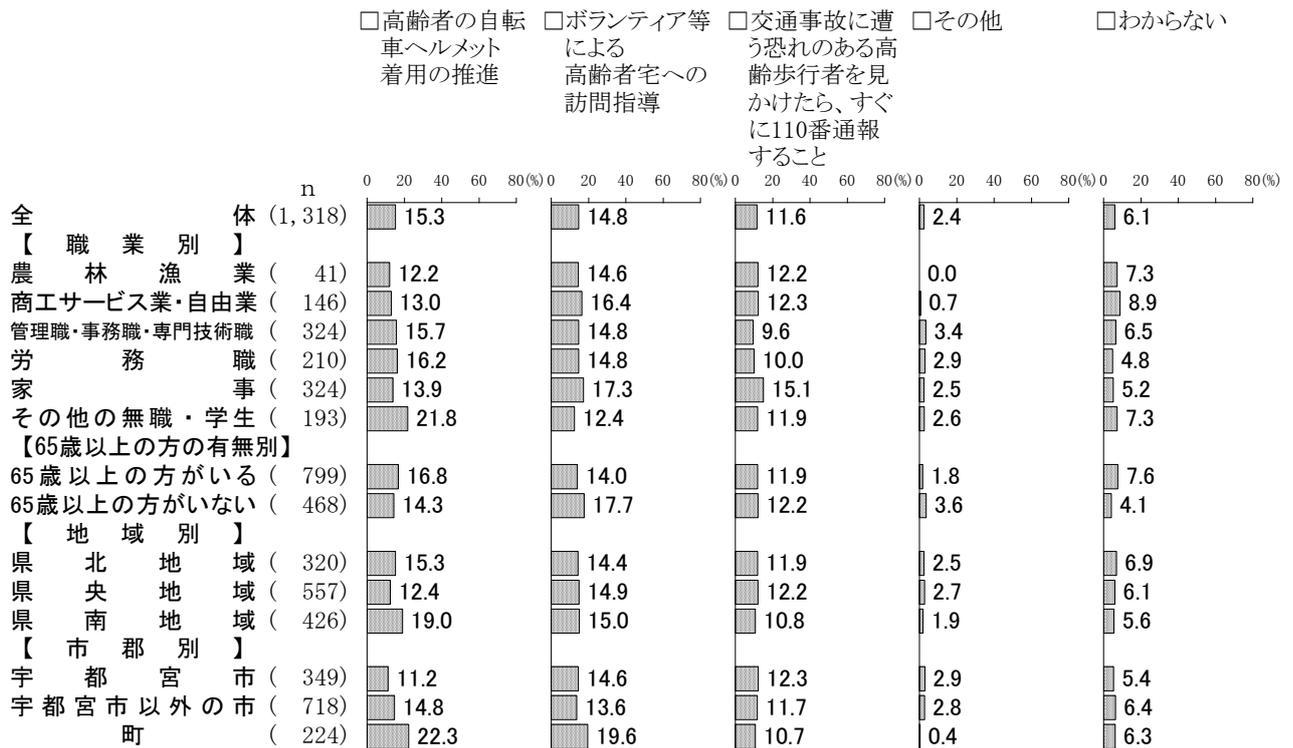
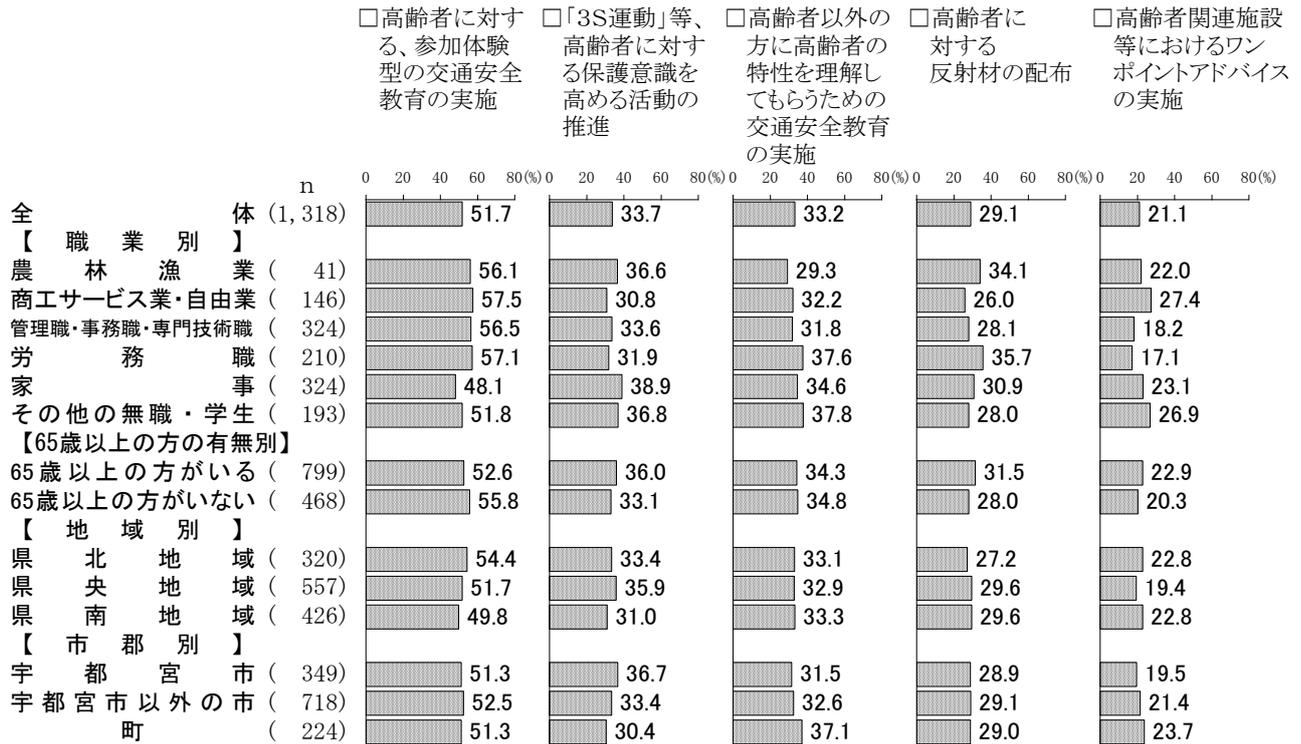
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性〉(36.9%)が〈女性〉(33.5%)より3.4ポイント高く、「ボランティア等による高齢者宅への訪問指導」では〈女性〉(16.9%)が〈男性〉(13.7%)より3.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈男性70歳以上〉が45.2%と高くなっている。

【職業別・65歳以上の方の有無別・地域別・市郡別】



職業別でみると、「高齢者に対する反射材の配布」では〈労務職〉が35.7%と高くなっている。

65歳以上の方の有無別でみると、「ボランティア等による高齢者宅への訪問指導」では〈65歳以上の方がいない〉(17.7%)が〈65歳以上の方がいる〉(14.0%)より3.7ポイント高くなっている。

地域別でみると、「高齢者の自転車ヘルメット着用の推進」では〈県南地域〉が19.0%と高くなっている。

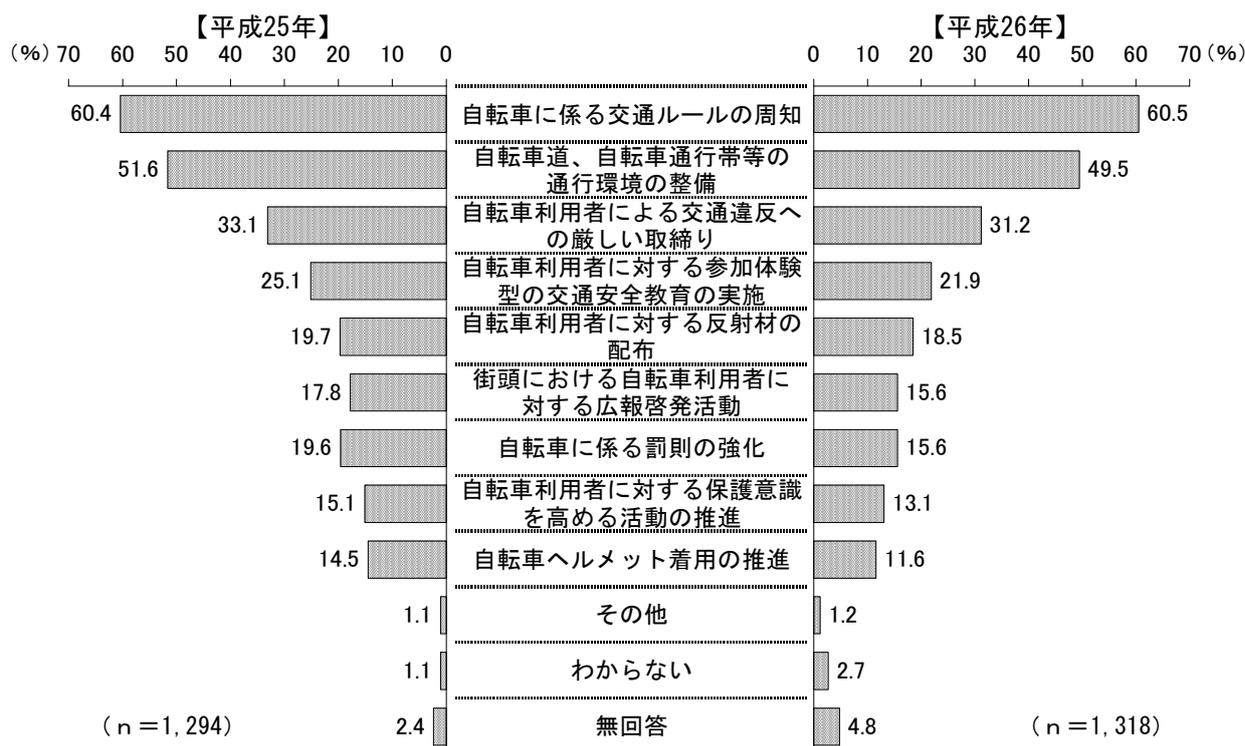
市郡別にみると、「高齢者の自転車ヘルメット着用の推進」では〈町〉が22.3%と高くなっている。

(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問42 自転車の安全利用を促進するために、必要なことは何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,318]

1	自転車に係る交通ルールの周知	60.5%
2	自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施	21.9
3	街頭における自転車利用者に対する広報啓発活動	15.6
4	自転車利用者に対する反射材の配布	18.5
5	自転車利用者に対する保護意識を高める活動の推進	13.1
6	自転車利用者による交通違反への厳しい取締り	31.2
7	自転車ヘルメット着用の推進	11.6
8	自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備	49.5
9	自転車に係る罰則の強化	15.6
10	その他	1.2
11	わからない	2.7
	(無回答)	4.8

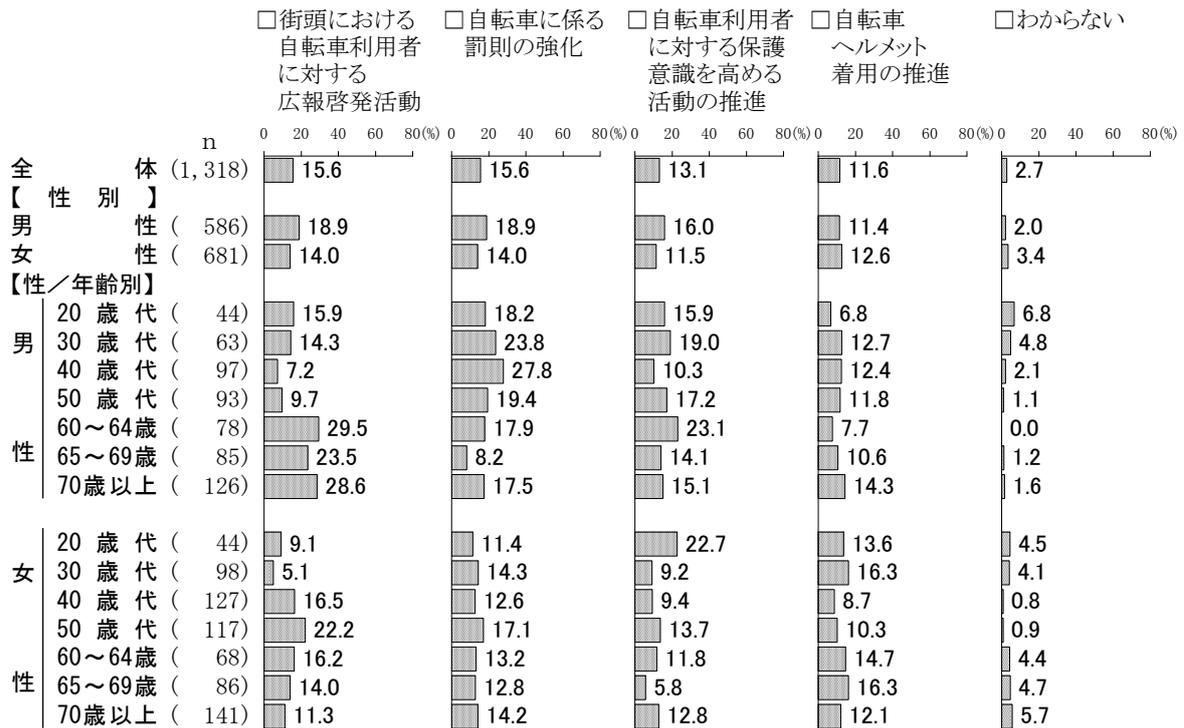
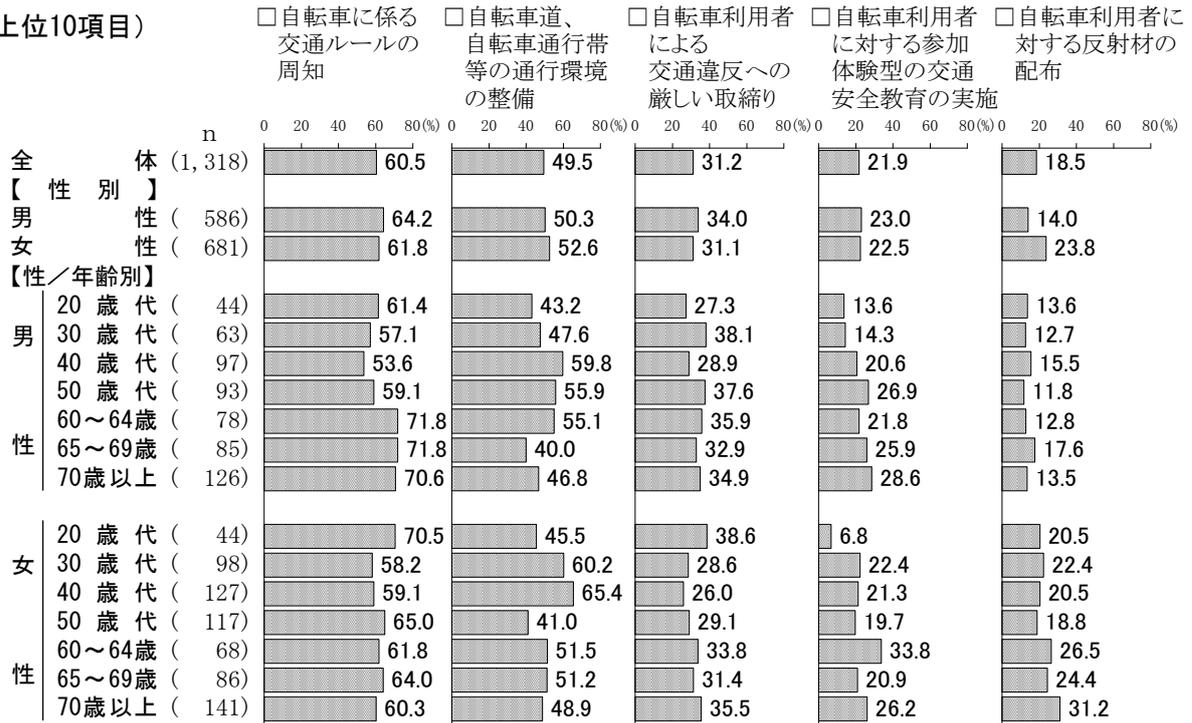


全体で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」(60.5%)がほぼ6割で最も高く、次いで「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(49.5%)、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(31.2%)、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(21.9%)の順となっている。

前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「自転車に係る罰則の強化」が4.0ポイント減少し、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」が3.2ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

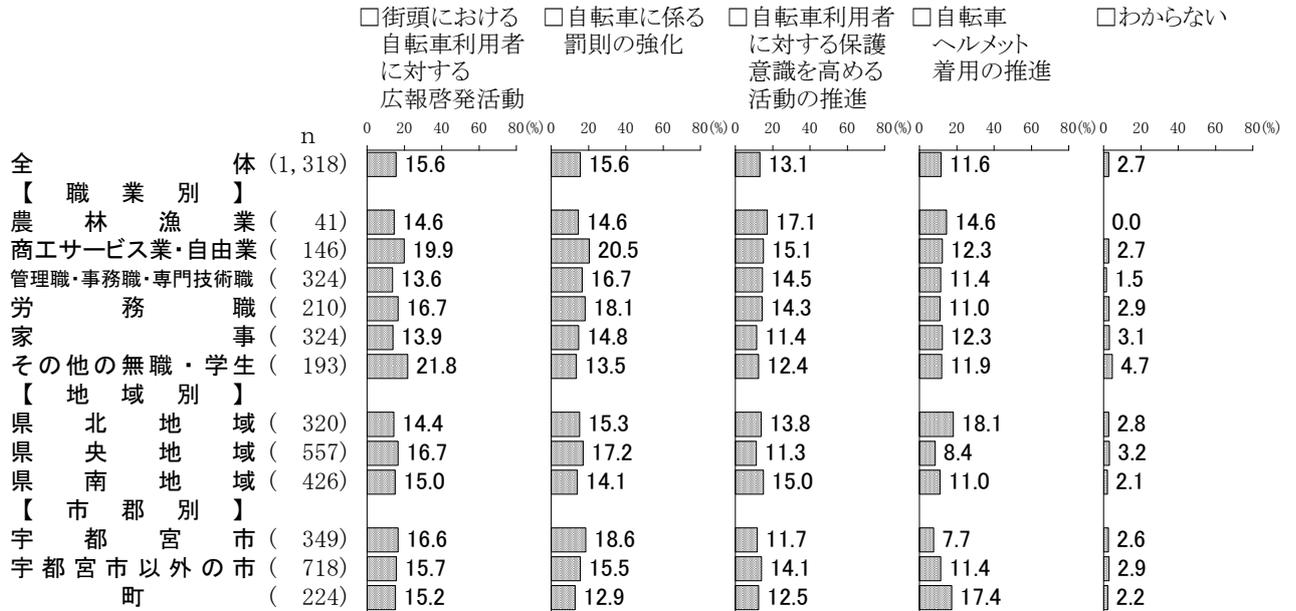
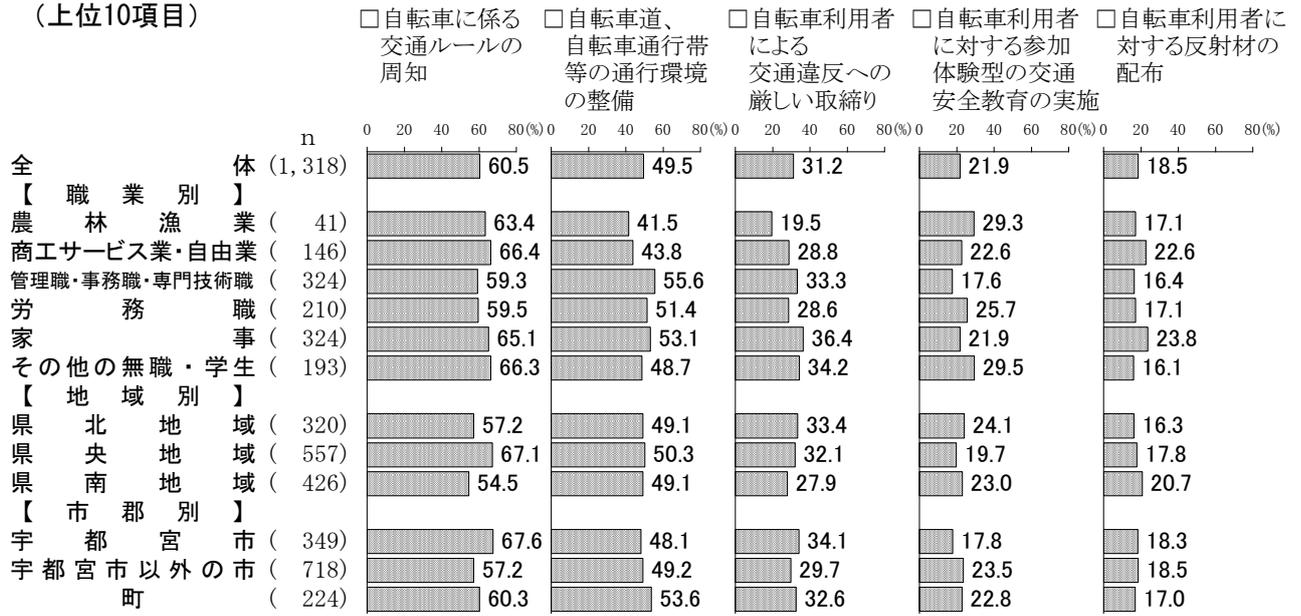


性別でみると、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(23.8%)が〈男性〉(14.0%)より9.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈女性40歳代〉が65.4%と高く、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈女性60~64歳〉が33.8%と高くなっている。「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性70歳以上〉が31.2%と高く、「街頭における自転車利用者に対する広報啓発活動」では〈男性60~64歳〉が29.5%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]

(上位10項目)



職業別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が55.6%と高くなっている。「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈その他の無職・学生〉が29.5%、〈農林漁業〉が29.3%と高くなっている。

地域別でみると、「自転車に係る交通ルールの周知」では〈県央地域〉が67.1%と高くなっている。

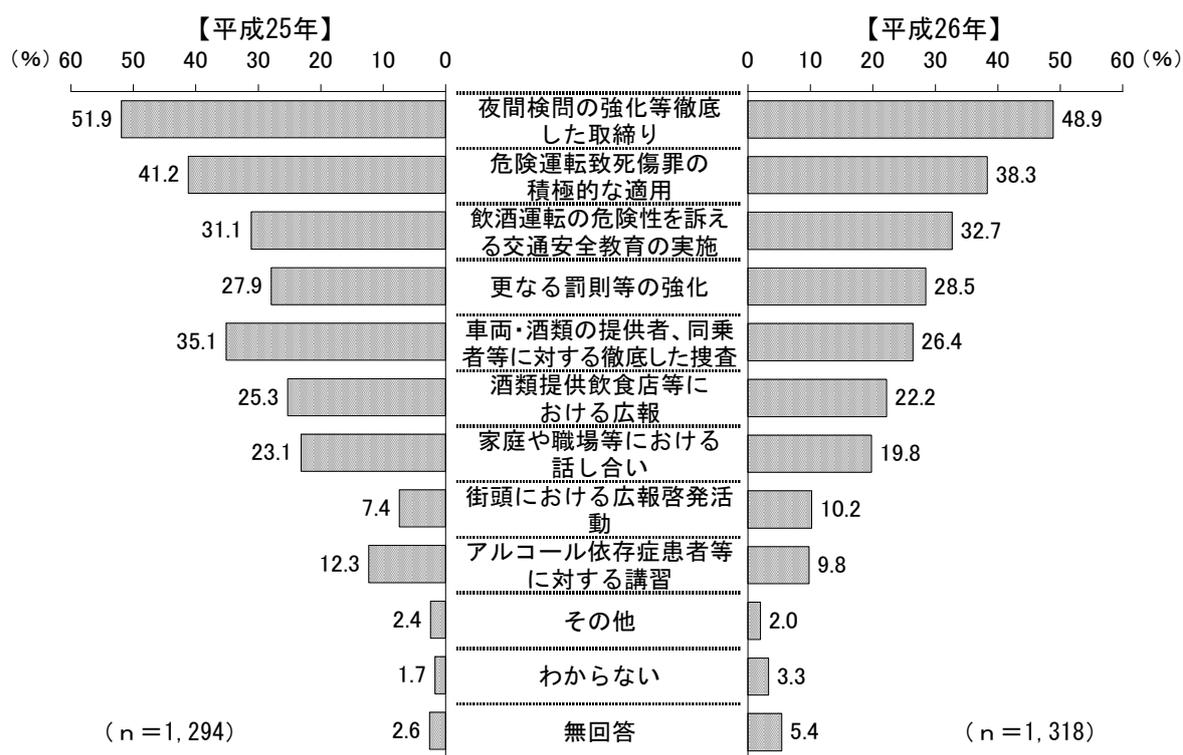
市郡別でみると、「自転車に係る交通ルールの周知」では〈宇都宮市〉が67.6%と高くなっている。「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈町〉が53.6%と高くなっている。

(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問43 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,318]

1	夜間検問の強化等徹底した取締り	48.9%
2	車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査	26.4
3	危険運転致死傷罪の積極的な適用	38.3
4	飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施	32.7
5	街頭における広報啓発活動	10.2
6	家庭や職場等における話し合い	19.8
7	酒類提供飲食店等における広報	22.2
8	アルコール依存症患者等に対する講習	9.8
9	更なる罰則等の強化	28.5
10	その他	2.0
11	わからない	3.3
	(無回答)	5.4

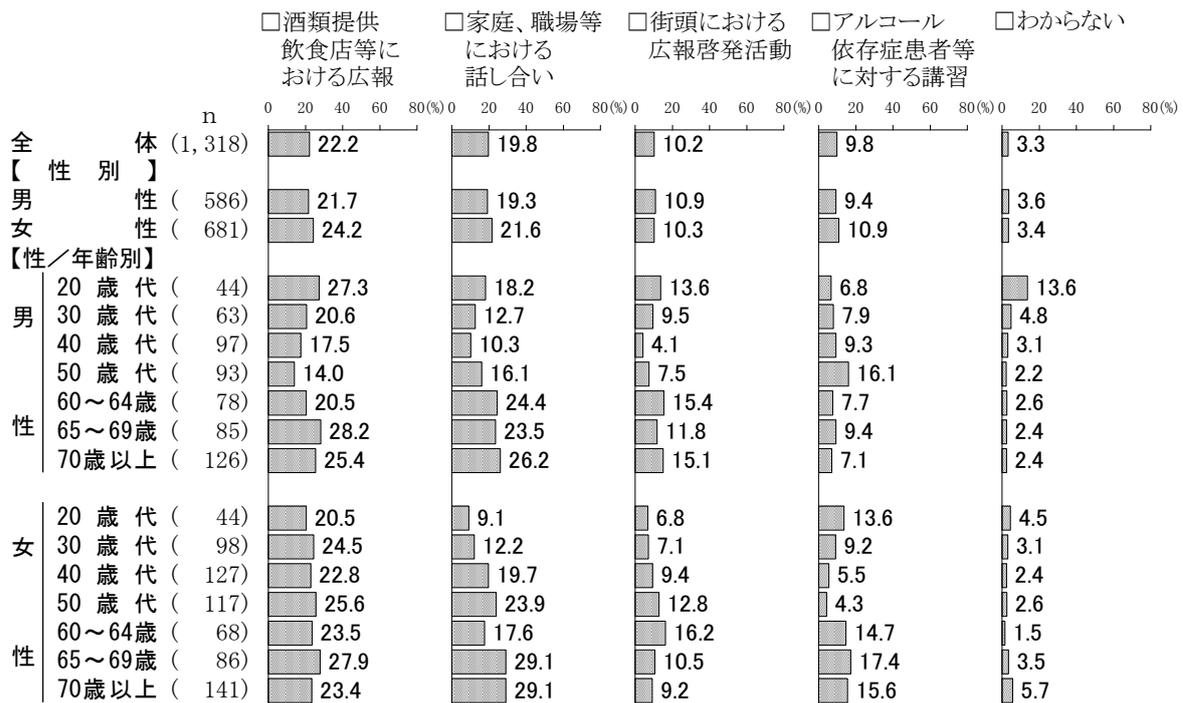
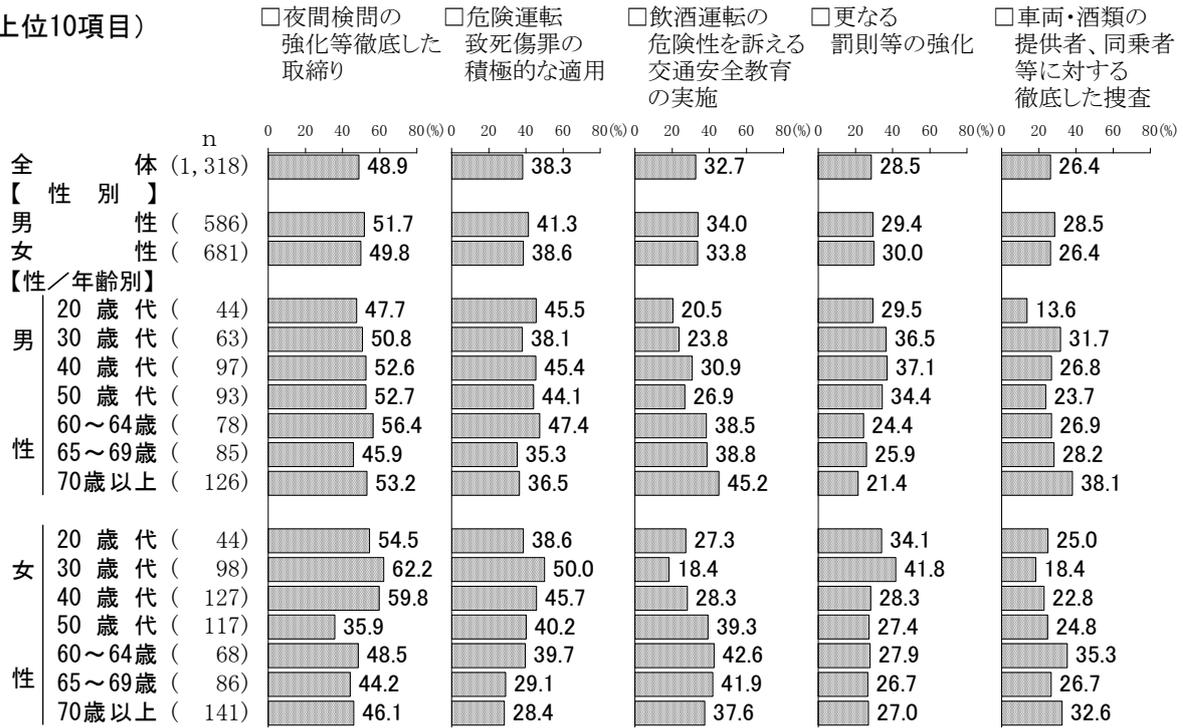


全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」(48.9%)が5割近くで最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」(38.3%)、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」(32.7%)、「更なる罰則等の強化」(28.5%)の順となっている。

前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」が8.7ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

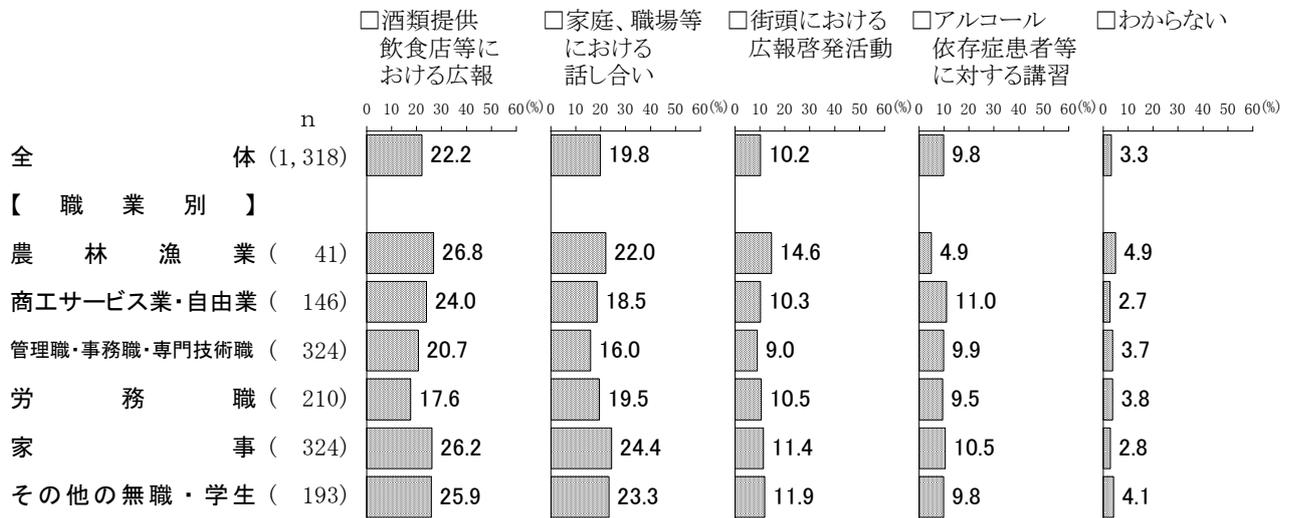
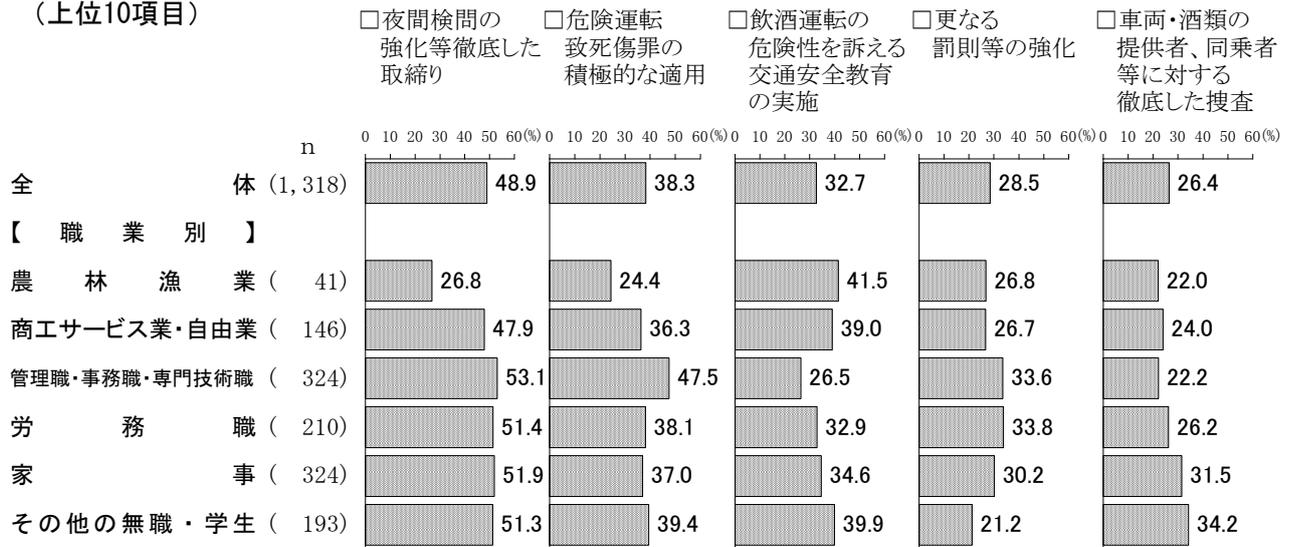


性別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈男性〉(41.3%)が〈女性〉(38.6%)より2.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈女性30歳代〉が62.2%と高く、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」でも〈女性30歳代〉が50.0%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈男性70歳以上〉が45.2%と高くなっている。「更なる罰則等の強化」では〈女性30歳代〉が41.8%と高くなっている。「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」では〈男性70歳以上〉が38.1%と高くなっている。

[職業別]

(上位10項目)



職業別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が47.5%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が41.5%と高くなっている。「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」では〈その他の無職・学生〉が34.2%と高くなっている。